

134.5°



(36)新温泉町





(37)篠山市





(38)丹波市





(39)洲本市





(40)南あわじ市





(41)淡路市



図 2.2.1 兵庫県市町位置図

表 2.2.1(1) 兵庫県において影響を及ぼすと想定される地震による各市町内震度の最大値

			220	海	清型地	震													活断層(3	E要)												
			例 震度4以下 震度度53 強震度度6 弱弱 震度7	東東南南海	東南 海·南 海	南海	3	有馬-高	槻 断層帮	11	六 (六甲山	甲•淡路 J地南編	各島断層 ≹−淡路。	₩ 島東岸)	×	甲・淡鉛 (淡路)	各島断層 島西岸)	带	六甲・淡) 断層帯(5) 断層帯	路島 先山 約	山断帯岐断帯	山断帯(主南部) 町帯(三市市)	山崎間 (主部は	所層帯 比西部)	山断帯部東草断 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」	山斯帯原万富部東 崎層大土安主南部	中央構 層帯(地東縁 山脈	;造線断 金剛山泉 (一和泉)	ц (紀	□央構造 淡海峡 ·	線断層 - 鳴門洮	帯
++h tat	夕 旦	民局名	古町夕		M8.5	M8.4		M	7.7			М	7.9			М	7.1		M6.6		M7.6	M7.3	M	7.7	M7.5	M8.0	М	7.7		M	7.7	
10.496	ъ ж.	民间日	10.00	-		-	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case3	case4	case1 c	ase2	case1	case1	case1	case2	case1	case1	case1	case2	case1	case2	case3	case4
	1	神戸	神戸市	苗皮の強	震度6%	百度の強	黄麻?	(京康7	- 東京7	東東 7	石銀7	887	茶港で	高度7	887	而來7	·言意7	田田7	苗皮5弱 苗	度5强	百度4回7	囊康6强	荒皮5强	直皮5强	高供7	首皮6強	高度6強	直度6弱	重度6弱	直皮6弱	重度の強	直度6弱
I		10.00 10	尼崎市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	287	287	田住 ?	憲律7	電信7	日本7	「変換すい	重度7	震度5強	震度6弱	震度5強	震度6弱	業資本以下 菜(R440王国	R 政4以下	震度6弱	常信4叫王	直接400下	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6强	震度5强	震度5強	震度5张
I	阪	反神南	西宮市	需度6弱	震度6弱	震度6弱	業業7	業度7	道度7	東度7	着度7	當麼?	業権7	業績ゲ	震度5強	震度6弱	震度5強	震度5强	當度4以下當日	14m 8	官庫4出下	震度6弱	宣進ム以下	震速4以下	震度6弱	震度6弱	雲度6弱	震度6弱	震度5强	震度5弱	震度6強	震度5強
0.000			芦屋市	震度6發	震度6弱	震度6弱	常業7	(業業)	南唐7	家康7	意識?	227	龍像7	業業7	雲度6弱	震度6弱	震度5強	震度6弱	業業4日下 業月	E4017	置建4回下	重度6弱	皇夜4以下	推進444下	雲度6弱	震度6發	震度6弱	震度6弱	重度5強	震度5强	震度5张	震度5強
阪神·	伸尸		伊丹市	震度6弱	震度6弱	震度6強	287	·王主7	247	227	227	227	287	227	震度5強	震度6弱	震度6強	震度5强	家族 4林下 南北	R444 F 3	國旗4月1日下	震度6弱	家課441字	家族4級下	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6强	憲度5弱	震度6強	震度5强
1			宝塚市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	8.87	141	8.87	2.27	2.81	247	業業7	2.27	震度5強	震度5強	震度5強	震度5强	重建4以下 置	E4U T	正成 件以下	震度5强	富度4川下	福建4日下	震度6弱	霍度6弱	震度5強	震度5强	重度5强	震康6群	震度5強	震度6弱
1	版	反押北	川西市	震度6弱	震度6弱	震度5強	8.87	·R.87	8.87	8.87	10.07	887	2.87	887	震度5弱	震度6强	震度6弱	震度6發	東京 4位下 賞(40.81	RMANT	震度5強	重加4四下	麻根4株子	震度5強	置度6弱	震度5強	震度5强	重度5弱	震度6弱	震度6強	重度5强
I			三田市	震度6弱	震度6弱	震度5强	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	雲度5強	震度5強	震度5強	雲度6磷	電量41以下	TEAULT	置度4股下	潮達4日下	置權4以下 家!	ALLE	習進4以下	震度5號	當理4以下	直撞4以干	震度5强	震度5強	重度4以下	氯座4級下	調理4日子	置度4以下	家建4以下	管理4回王
			猪名川町	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6弱	震度6弱	重度6弱	震度6器	重度6強	震度6弱	震度6弱	震度6弱	着食4以下	室堂4127	霍康4以下	雷崖4以下	君達4山下 常	1412年3	重度4以下	霍集4以下	置僅4以下	霍建4位下	霍霍寺城下	温度4月下	王皇ムロア	置像されて	雷座 4127	置建4出下	霍佳4以下	臺廣4以下
I			明石市	震度后強	震度8強	震度6強	震度6強	常度日建	雲度6強	震度6強	287	287	287	田田 7	田田 2	287	E#2	887	當度5強 當	度5強	BR4BF	287	震度5強	雲度5強	287	雷度6強	震度6強	震度6弱	雷度E弱	雲度6弱	雲度8弱	震度6弱
I		the last site	加古川市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	面度6強	東京 7	氯度6強	227	重度6強	震度6強	雷度6强	震度6強	震度6強	雷度5得 震	度5強	官庫4山下	東康7	雲度6弱	震度6弱	業業7	東線?	重度6弱	震度5强	震度5強	震度5強	震度5強	震度5強
I	東	東播磨	高砂市	震度6強	震度6强	震度6张	震度6弱	震度6强	震度6弱	震度6強	置度6张	置度6強	震度6強	震度6强	震度6强	震撲6強	震度6弱	震度6强	震度5弱 震	度5弱	雷度5弱	家族7	震度6號	震度6强	重要不	887	震度6弱	震度5强	震度5強	震度5强	震度5张	震度5强
I			稲美町	震度6弱	置度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	意用7	氯度6強	第章7	震度6强	震度6强	震度6强	震度6强	震度6弱	震度6弱 雷	度6篇	夏度4日于	田康 7	震度6強	雲度5強	重度7	震度6強	震度6弱	震度5强	震度5强	震度6弱	震度6強	震度5強
I			播磨町	震度6器	家族6弱	震度6弱	震度6弱	震度6群	袁庆6弱	面度6強	石度?	重度7	東津7	227	家族6强	雷度6强	震度6強	震度6強	震度6強 震	度5強	官會4以下	東建7	雲度6弱	震度6弱	業業7	當度6強	重度6弱	震度5强	雷度5强	震度5強	袁度5強	震度5強
I			姫路市	震度6强	震度6強	震度6強	震度6弱	震度6強	震度6弱	震度6強	震度6强	震度6強	震度6强	震撲6強	震度6強	震度6強	震度6弱	震度6强	東度5發 第	度5弱	震度5强	高度7	王保 7	227	東東7	東京?	震度5強	震度5強	震度5强	震度5強	震度5强	震度5強
I	±	白播磨	神河町	震度5強	袁度5強	震度6強	居康40.7	需度4回下	君佳411书	洞度5群	黨庫斗出于	重进4以下	震速4以下	雷速4以下	器推 41以下	君實441.7	業権4年下	當連491年	需度4回下 震的	E4SIT	豊康4旦下	重度6強	雲度5強	素度6強	雲度5強	震度5強	雷度441下	設建4以7	當座49.7	等度中国下	震度431下	還度4回下
I	1.1	1 714 243	市川町	震度6弱	震度6弱	震度6弱	實度4些下	震度5弱	管理4座下	震度5番	實度4以下	富重4以下	震度4级下	富康4城市	REALT	震震444下	截度4林下	氯康4科子	重建4从下 案的	E4HIT	直撞4以下	震度6弱	氯度5弦	雷度5強	置度6弱	富度5强	富度444下	副像4林下	案准44.7	重度4以下	常理4排下	資産4以下
I			福崎町	震度5强	震度5强	震度5强	調査4以下	震度6弱	國債4以下	雲度5弱	置像4以下	雷在4月下	震會4以下	雪康4以下	震像4以下	重度400下	數據4以下	富康4以下	查查44F	2484 F	書畫4級下	震度6募	震度5強	震度6強	震度6弱	震度6弱	震度4時下	蒙蒙4泉市	震度443 1	雲鹿4川下	就使 400下	雲南4以下
I			相生市	震度6弱	重度6弱	震度6弱	震度4以下	囊盘4以下	表度4以下	震度4以下	袁虔5弱	震度6弱	素皮5勝	震度5弱	業度5弱	震度5弱	震度5弱	震度5弱	業度4以下 港北	442下	雲度5縣	震度5強	雲度6弱	重度6弱	雲度5強	震度6弱	震度4以下	置度4以下	震度5弱	震度5弱	管理4科下	震度5弱
採用	*		たつの市	震度6強	震度6强	震度6强	震度5强	震度5强	雲度5弱	震度5强	震度6弱	震度5强	震度6弱	震度5強	震度5强	震度5强	震度5強	震度6弱	蒙皮6弱 富	度5薪	震度5张	震度6强	重度7	家康7	震度6強	重庆7	震度6弱	震度5番	家康5弱	震度5强	震度6弱	重度5弱
100 1-	•		赤穂市	雪度6強	重度6强	震度6強	道理4以下	重度4以下	覆度4以下	書畫4以下	豊康5縣	直度6 發	袁虔5弱	震度5弱	雲康5騎	雲度5縣	震度6階	黄度5弱	實資4以下 震力	4911	震度6弱	震度5强	震度6弱	震度5强	震度6強	震度6發	震度4回下	直接4以下	蒙皮5弱	震度5弱	雲度6騎	震度6弱
I	西	西播磨	宍粟市	需度5弦	震度5強	震度5強	霍建4以下	雪崖4些下	霍建412年	国建4川市	森康 4日下	置建4世下	霍维412.7	224WT	着金4以下	夏達4日 市	業業442下	雷崖412年	雪崖4山下 家!	1442 T	雷度5弱	震度5強	震度6強	需度6強	雷度5強	震度6強	霍童447	梁康4级下	雷座4127	五津 4出下	家住442 下	重度4以下
I			太子町	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度5弱	震度5强	震度5強	震度5强	震度6弱	震度5强	震度6弱	震度5强	震度5强	震度5强	震度5強	業度5強	蒙皮5弱 氯	度5弱	震度5张	震度6强	震度6强	家康7	震度6強	震度6強	震度6弱	震度5弱	家食5弱	蒙康5弱	震度5弱	重度5弱
I			上郡町	震度6弱	震度6弱	震度6弱	信度4以下	調査分却下	国政 4527	四麻4以下	袁廉441十	営業キル下	探境4187	-	算機4以下		語像も以下	需素4 447	営産 4以下 営(2441F	業度5弱	調査4以下	雲度6強	震度6强	雷度6弱	震度5強	業業4877	需使 4337	田康462 年	書庫4以下	雷度4以下	震速4以下
I			佐用町	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度4日节	雷度4回于	霍波44.5	雷库4以下	富度4以下	TH ALT	TRANT	E #487	RR4617	T#467	蓄意 4座下	氯汞4以下	富康4四下 富	840(TF	當度5番	富度4月下	震度6强	震度6弱	震度5弱	震度6强	E#467	新桃 4RT	氯汞4417	SRAW T	重度4川下	雪康4以下
I			西脇市	震度6弱	雲度6弱	震度6弱	滋度 5時	震度5強	黄皮5弱	震度5強	當度5弱	雷度6番	液度5 路	索度6弱	業業 4日下	2244W	幕僚4以下	震度4月下	重建4以下 置	2441 F	営業 4歳年	震度6弱	雲崖6縣	震度6弱	震度6弱	震度5強	置度4以下	整建4级中	霍建 4电子	三 由401万	氯值4月下	雪樓4以下
1			三木市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	887	面度6强	2.27	震度6强	震度6强	置度6强	重度6强	雲度6強	業度6強	震度6弱	震度6弱	震度6弱	素度4以下 業	4407	日度4以下	重度6强	震度5強	震度6强	287	東京 7	震度5强	震度5强	震度5個	震度6弱	黄度5弱	雷度5铢
1		化探萨	小野市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6强	震度6强	震度6强	雷度6强	震度6弱	震度6强	震度6弱	震度6強	震度6强	震度6弱	震度6弱	震度6弱	業業4回下 堂!	EALLY S	TRANT	東田 7	震度6弱	震度5强	業業7	第.#7	震度5強	震度6強	菜度4出了	884MT	電機4日下	重度4月下
I	1	に作用店	加西市	震度6弱	袁度6弱	震度6弱	震度5强	震度6弱	震度5強	震度6弱	重度6強	震度6弱	震度6弱	震度6弱	袁庆5强	震度5强	震度5強	震度5弱	憲度4Ⅲ下 震的	44ET	書畫4回市	花住 7	袁度6弱	震度5強	業業工	業業7	震度5弱	蒙藏4以下	常度4年7	富度4回下	常度4日市	雪虛4回下
I			加東市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6强	震度6强	震度6强	震度6弱	震度6弱	震度8弱	震度6弱	震度5强	震度6弱	震度5强	震度5张	氯建4以下 氧	1410 T	副成4337	2.8.7	震度6弱	震度6強	三主7	氯溴7	常度5弱	震度6弱	雷度4级7	氯建4回下	霍康410下	霍像4以下
			多可町	震度5強	震度5强	震度5強	霍度5弱	震度5弱	震度5弱	震度5強	##48F	## 487	# #487	教教 4編手	家族4級下	## 461.1	截值4级下	氯汞4氟平	電像日以下 電	14 M T	副實有部下	震度6弱	雲度5弱	素康5弱	震度6弱	震度5强	夏度4日下		氯建4级1	雪水市以下	業務4級市	業業4級下
			豊岡市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	君庄441下	業度4位下	潜度421下	雷速4回下	器線441平	意識 有此 下	嘉建4级下	袁建4世下	市市 4以下	直度4以下	蒙崖4Ш下	常度4年下	業度4回下 酒!	E482.R	救康 6弱	業度4起了	震度5強	荒漠5弱	業度4単下	震度5弱	震度4以下	蒙康4以下	常度4年7	業度4回下	着度4回下	雷查4回下
1			養父市	震度5強	震度5强	震度5强	置度4以下		装填444下	雲葉4川下	霍信4以下	氯章4以下	教信 4項下	雷森4出下	BR44	當業4以下	吉津 4以下	震度4以下	業業4以下 憲法	E4147	震度5強	氯度4以下	氯度5強	震度5强	224UT	震度5強	富度4以下	業業4以下	前度4以 7	ERAUT.	氯億4以下	囊囊4以下
I	1	但馬	朝来市	震度5強	震度5強	震度5強	置度4以下	蒙赛4日下	素度4以下	憲法4以下	業度4份下	震速4日年	置度4以下	雷拉4四下	-	業産4日本	業度4歳下	氯建4出于	武康4山下 面)	CARLE I	日本4日下	震度6弱	震度6弱	震撲6縣	震度5弱	震度5弱	東京4日 下	「「「「「「「」」	氯建4出书	蒙康4回王	國旗4日下	雷度4日下
但馬·	丹波	101/0222	香美町	震度6弱	雲度6弱	震度6弱	雷度4回下	雪像4出下	環境4回市	富康4山市	高度 4以下	着住4日下	業成 4は17		夏度4回下	TR44.7	RR 4411	雷度4以下	雪樓4山下 雪	4497	家康5番	高度4日下	震度5强	震度5強	當成4四下	家康5番	284UT	R # 4.517	前泉 4四寸	雪樓市山市	案件4回下	業業 4以下
1111 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	a na an tha an tha		新温泉町	震度6强	震度6弱	震度6弱	224403	RAANT	TR4UT	RR4UE	TRANT	ERAUT	前市 400平	284UF	TRANT	T # 40.7	RAANE	Mit am b		RANKET	索度5弱	Mill ALL	蒙康5弱	震度5強	-	雷度6番	TT AN F	蒙藏4周玉	TH AR 1	B#40 1	TRANT	雷旗马田市
I		-	篠山市	震度5殊	震度5端	震度5端	震度5端	震度5端	震度5端	震度6端	震度6端	黄序6础	意来5张	雷康5朝	Billio a state	T.C.AUM	BRANT	TRANS	武康4四下 四	14917	BR4UE	震速5器	震度4日学	新水 411 平	雷库5级	雷康5县	28417	B-#443	田市 4日日	B84117	8 8 497	S#4117
	+	丹波	丹波市	而度655	高度6弱	高度655	東京5 隆	高度5%	高度5%	而度5%	高速555	高度5%	高度555	高度5強	TRACE T	BT 403	Riter.	T	RRANT TO	1411 N 2	E#451 *	高度5%	高度5日	高度5%	震度6弱	震度5%	E # 400 T	E # 414 T	R#467	-	E #4815	10 10 AL
			洲太市	雷度合体	常度合物	200	雷波古路	震速5神	黄津の神	雷康5 建	雷康6弱	雷康6神	雷库6件	黄度6味	雷度6神	雷康高雄	言律6號	雷康6建	震康6张 二	12 6 3	T# 451 T	雷度5建	2010 A 12-12	-	雷度5弹	雷度5端	雷度6强	常度6码	287	2.87	227	227
38.9	8 :	淡路	南たわじま	Their	TROM	2002	20-2			THEN	20.2	TROR	TROP	TRAN	TROP	TROM	20.22	2002		10.070		2910	201		10 10 × 10	THE PLAN	200 c21	2000H	-	-	1000	
120	* °	1 C PH	用の打し口	Mile and	mik of	THE OF	THE OWN	THE CAL	The Car		ALC 0 33	at 10 0 55	and one	and Usa	and old	max 028	and oth	and one	The char and	10 C 22		TRACT	Tarra	10 da 17 20	20 40 C	-	THE COL	max val	-	-	-	-
			灰哈巾	順度も強	ME A 0 9	MIROM	- 載度5時	m.00.05%	前夜0時	AR DE DE	State /	and the second s	100 M	max 1	100 III (100 (100)	BR (B, 7)	and a r	相撲 一個	01039	Mar and a state of the	蔵液の特	構成の時	順度5號	開催の第	# 16 0 16	麻液 0號	麻泉(5 特	100 Line /	and the other	and 100, 17,	max /

表 2.2.1(2) 兵庫県において影響を及ぼすと想定される地震による各市町内震度の最大値

-																活断層	(主要)													- 1
		(F)																												
	九	ויפו																												
	震	度4以下																												
	震	度5弱	4	中央構造	線断層	带								1. 11. 11	c 100 444			Ξí	⊯-京都	西山断	層帯		三	⊯-京都	西山断	層帯	三百	⊭-京都	西山断	層帯
	震	度5強	5	讀岐山	脈南縁				上町	昕 僧帝				生駒間	加增带			(京都西	山断層寺	帯)			(上林川	断層帯)		(三峠間	所層帯)	
	震	度6弱			-10 (S) A	HP7																								
	震	度6強																												
	震	[度7																												
				м	8.4				м	75				M	15				м	76		-		м	72			M	7.2	
地域名	県民局名	市町名	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case3	case4	case5	case6	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case3	case4	case5	case6	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case3	case4
	神戸	神戸市	営産6発	震度5強	震度5弱	震度5強	震度6强	震度6強	國度6號	震度6強	震度6强	重度6強	震度6弱	震度6弱	震度5強	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震速4回1	需要4以下	数据411下	置置411下	震度5強	着建4年下	震度5弱	震速5弱
	-	尼崎市	調査4以下	震爆4日下	国企 4日1	書建4日下	227	287	227	227	227	田住 7	震度6號	雷度6强	震度6強	震度6强	287	三座7	震度6強	227	227	震度6強	當住433.5	雪星4品下	RR4UT	重建418不	震度5強	震度5强	震度5强	震度6弱
	阪神南	西宮市	留住 4以下	需度400年	調度4回3	国康442年	三世7	五世2	置度6强	震度6強	二世7	田田 7	震度6弱	震度6發	震度6弱	震度6發	震度6强	震度6強	雷度6強	震度6強	雪度6強	震度6强	業業4点1	雷度4川下	重度4以下	置置4出下	震度5強	震度5強	震度5幕	言度5強
吃油,油豆		芦屋市	聖皇4以下	変度4日1	震震 407	「古種中国市	震度6强	震度6强	震度6強	需度6強	震度6强	置度6強	震度5強	霍度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	重度6弱	震度6弱	変度6弱	面積4回7	高度4回了	新教4417	室理4日下	RR44 R	温度4日下	2244F	THAN Y
HX 19 . 19 /		(7) 行行 印 定 探 市	設備ないで	200 A 117	THE ALL P	5 第2444.1	TROM	TRAN	2000	200 Sta	2.00 M	2000	高度5時	液度5時 素度6器	設度5時	変度6張	1000	1000	変接の強 雷波の弱	2000	10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	構成の強 雪皮の弱	2010	東京の山口	東京の日本	間接ち後	変換の強	変度の強 管律5端	取扱り強 電像方確	順度0時 雪康5端
	阪神北	川西市	開催されて	224411	B.R.412	四唐4日下	震康6强	E .	間度6強	震度6強	雷康6強	887	震度6弱	震康6强	震康6弱	震度6弱	ER7	247	震度6強	2.17	震度6強	震康6強	震度5發	震度5弱	震康5弱	震度5強	震度5強	震度5強	震度5强	震度5強
		三田市	調査も以下	雷度400万	営業433 3	國產442字	震度6群	霍達5弱	款度6 码	震康5薪	調度5時	震度5弱	震度4以下	雷鹿4以下	置度4世下	置度4以下	震度5弱	震度5強	震度5強	袁庆5祭	震度5強	震度5强	双 推4443	震速4以下	意度 4以下	温度4以下	震康6發	震度5弱	震度5弱	常度5弱
		猪名川町	建建4以下	変建4日7	R# 447	富建461下	震度5强	震度5强	震康6弱	震度5张	震度5弱	震度5强	置度4屆下	常識為結實	置度4日下	震度6弱	震度5强	震度5强	震度5強	震度5强	震度5强	震度5强	混使444 7	室積4817	双旗 441下	堂置4日下	震度6弱	震度5時	震度5弱	震度6弱
		明石市	素度5募	震度6強	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6發	震度6弱	震度6群	實業產品等	素像4以下	氯度441字	氯化4以下	震度6強	震度6弱	震度5強	震度5強	震度5強	震度5強	寬度4817	雪貴443	素像4以7	滚费4回下	藏藏4.43%	高度4年下	業務 444.5	袁撰4以下
		加古川市	重度6弱	震度5強	震度5弱	重度5強	袁度6弱	震度6弱	震度5強	震度5強	営業4以 7	震速401下	震速4出下	書推411年	賞度4以下	蒙康4以下	震度5弱	震度6強	震度5強	震度6發	震度6弱	震度5強	要求4 433	富度4世节	要维432节	置值4以下	震度6强	震度5弱	震度6弱	震度5強
	東播磨	高砂市	雷崖5强	震度5強	変度5弱	雲崖5強	置僅4以下	百度 4以下	震產4以下	雷達481下	富康4県下	羅律4品手	室屋4以下	##48 F	置理4以下	調催4以下	震度5弱	震度6弱	震度5弱	震度5弱	震度5弱	震速5弱	書畫43.1	雪度有以下	家食4以下	置度446下	震度5弱	震度5縣	震度5弱	震度6縣
		相美町 医麻町	THE CO.	東京5日	224M	変換の時	夏度6强	正度5弦	変度5強	東京の祭	荒茂5强	震度5强	管理有単子	RIRAL P	THE ALL P		高度5時 学校5時	直接5強	東京5日	変換5時	直接5強 (市内に28)	直接5強	変換4日3	変換ないの	田田460下	11849.01 1189.01	高度5强	東京の祭	高度55	正直5日
	-		雷度5強	設法の法	震度5強	重度5強	10 10 4 11 T	2 1 4 4 1 1	THE ALL P	22407	三世4117	E # 411 F	管理を以下	電信4以下	田田 4415	電像4以下	TTART.	電信4回下	TRAUT	TRACT	2 12 4 G 7	E#407	國産4127	2#48F	武康4以下	武康5羽	震度5强	東京 日本	富康6 昌	言律5弱
		神河町	該市 4以下	新度411 7	業市 411	着像4级中	三度4以下	据度4以下	雲盧4山市	素業4以下	雲道4以下	震速4以下	書度4以下	業業4以下	夏度4以下	書庫4以下	調査4日下	営業 4出下	据度4以下	書庫4川下	東京4117	金建4以下	吉住4 以1	言度4以下	震爆4.11下	雪田4日下	唐度411万	商业 40下	豊康4以下	荒腹411 下
	中播磨	市川町	国金 412 8	224017	2844H	· 霍维4起下	置信4以下	E#44.7	高度 433.7	書書4以下	224UT	就像433. 第		##48.F	224UF	國權4以下	重度4级下	國建4以下	重度481 节	重建4以下	國連4回1	雪樓4以下	調査4以7	284M.T	國產4 441书	重度40.7	国建4以下	吉田 4日下	直接 4城下	雷度4局下
		福崎町	調査4以7	震度4113	國理4组1	酒度4位于	国建4以下	常度4以下	當座4世下	素度4以下	言责 40.7	霍雅4位书	雷速4山下	清津 4以下	置置488千	蒙建4以下	君庄4后下	當度4日下	需度4以下	震速410円	震速412节	實進4出下	富貴4以7	震速4以下	最康4加下	温度4出下	装建4出下	寄建4位下	當進4日下	常度411下
		相生市	需量444万	震度5将	38 4447	雷捷4回下	氯镍4组下	1144HT	當像4回下	管理4日下	富富4四下	製作441下	重度4度下	常像444下	置置4川下	證信441下	重度4回下	2 2414	業度4以下	當度4世下	設建4以7	置會4四下	常後4217	\$#411T	常像4叫卡	28487	置度4以下	284UF	重量4四下	置權4屆下
播磨		たつの市	素度6弱	震度6強	索度5弱	震度5弱	調査会員下	家族4417	家務444 平	素食4時下	変像 4単下	覆度4以下	雲推4以下	業業4以下	氯度4叫下	家族4以下	氯度4以下	賞住 中以下	重度4以下	業康4級下	業度4617	重度4出于	國度 4337	雪景4叫下	家伙4叫下	常使4叫下	截度4以下	環境4日下	重建中国下	電度4以下
12342304	市场库	亦想巾	富度6縣	震度5锅	震度5日	富康5録	国産444下	変度 dial F	雪盧4川下	開催4以下		22447	官庫4川下	言葉も以下	夏重4以下	開催されて	要性もロー	王章4出下	東西山山下	重度4以下	THE ALL T	高度4以下	原理4131	E E 4 2 1	THE CASE OF		E #4UT	THE ACLE	EE4UN	産産る出す
	2318445	大子町	開催411 7	284117	11 12 4 14 T	T # 4 41 1	2244	新度460 F	三市 本4山下	意味る以下	22407	2 1 4 11 F	言語本語で	TRAN T	28401	10 10 4 11 T	間接46.F	常理401	雪市4以下	2 2 4 1 1	医腺石酸子	2 2 4 4 1 T	市市4 447	言葉ないで	E#4UT	224415	武波 4117	20407	22440T	調理4以下
	I 1	上郡町	田田 4427	20411T			氯度4组下	224117	雪像4回下	調査4日下	2844A	副市4日下	ER4UF	TRALL F	倉田 4月 7	國債444下	1844H	夏葉4以7	雷度4417	国住 4川下	業准4日 7	雪雪4以下	電波4417	22447	業務4以下	重度447	業業 447	##407	224W7	當住441下
		佐用町	家務 43278	震度4以下	業度 4927	家業4個下	家住441下	家度4 411下	書業4日下	家康 441平	電査4以下	直接 413.7	書催4以下	蒙在4以下	夏度 481下	富度4以下		重度4日下	業度4以下	重要4以下	直接4以下	重度4级不	國度 4以7	8#48.T	密度 4-347	業度4級不	業業 4以下	液体4 年下	重度4以下	常度4以下
		西脇市	国業 4以下	震速4823	畫樓4出	着像4回节	国建400节	素度 411年	豐富4四市	素量4以下	重量4以下	置度4以下	官康4川下	意識4以方	夏重4以下	書庫4以下	調査されて	波度6科	袁度5騎	震度4801	雲度5弱	蒙崖5铢	業度4101	意度4307	新维 43333	意理 44 开	索度5骑	當度5個	袁建6韩	深度433年
	[三木市	家族444 节	霍達4以下	重建4417	常 重建斗纵市	震度6弱	震度6弱	震度5強	震度5強	震度6强	震度5強	224UT	R Bester F	夏度4月1下	要產4以下	震度5弱	震度5强	震度5强	震度5弱	震度5强	震度5强	震度5勝	面積4回下	素度5募	震度5弱	震度5强	震度5弱	震度5弱	震度6弱
	北播磨	小野市	震康4以下	需度4日下	直度4 出7	市富建4起中	震度6強	震度5強	震度5強	震度5強	震度5強	震度5強	署進4以下	震推4以下	震度411下	震遽4纵下	震度5弱	震度6弱	震度5強	震度6弱	震度6弱	震度5強	室腹5弱	変度6弱	震度5弱	置度4以下	震度5強	震度5弱	常度5發	震度5強
	-	加西市	調査4月17	正理 4107	THE ANA	1 直産441下	変成5時	重度5番	直接5時	雷連4日下	224UT	福津4日下	言葉各以下	業種有以下	主理4447	直建4以下	TRAIL T	変更5日	震速5時	変度5弱	震速5時	変換5時	前後4日7	1244T	REAN'S	EE4447	変度5時	正度5時	TTAN P	重要4月17日
		2 2 3 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	武庫432.1	****		1 単価中国 1	直接5强	高度0%	載度5強	義法の部	10.000	加速り線		REAR IN		新聞名は国	ALC IN	原度り強	直接 5%	単度り物	直接5葉	(現在)強	単度のな		産業の第	ALC BLUE	新聞も知	現在の時	相撲5時 世中の祖	新使り物
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		豊岡市	国建4级下	2 (FAU) 7	常理4417	四月 4日下	君康4以下	224617	雷康4回下	調達4以下	常度 4世 T	四線4は下	業業を出す	常業4以下	E # 411 T	雷度4月下	24467	震康5日	言律5弱	市体4以下	豊康5縣	豊康5番	言度5張	震度5端	業度5時	震度5強	震度5强	震度5號	震度5强	言席も残
		養父市	読書44.5	震度4日下	直建4出1	富度4位节	雷康4位下	着度4出下	营业4组下	素度4以下	震進 4以下	氯化4山下	雲度4以下	素像4以下	震度4川下	震速4以下	##4G #	意味4以下	索度44.7	震塵4與78	推维4 447	實證4以下	直接443 1	家食5弱	東京411 1	重度5番	震度5弱	電復5個	索度5弱	雷波5弱
	但馬	朝来市	重量4级下	新建 4日7	E#441	夏霍441年	百合 4世下	家建4 427	温泉4日下	雷隆4日下	憲法 4137	截度4日下	富度 4以下	業業4月1日	在住 4四下	置度4以下	雷盘444中	石住 4時下	霍度4世界	重度4月下	装成464 7	王士 4447	常业443 7	震度5弱	言度5弱	雷度5弱	震度5强	震度5弱	震度5强	需度6弱
但馬·丹波		香美町	常度 時以下	震震者以下	R#4 97	R#480 F	重度等现于	業度4回1	S \$487	業産4級王	2224BT	重度4回王	富康4月55	教育 科以下	重度4川下	黨權有限下	面積4四支	堂住谷山下	重庆401	R #48.7	業産4107	業成40 下	雲度6祭	震度6弱	震度6弱	震度5弱	震度6弱	震度5弱	震度6弱	震度5弱
		新温泉町	国建4817	當成400	幕康4817	常建4以中	家康488书	教理 4811	高度48 17	素度4以下	高度407	原度4以下	重度4以下	Right of F	1 1 4 4 H T	重度4以下	潜在4以下	重度4以下	密度 481 F	清潔4以下	双度4617	置度4以下	黄桃4月3	罰證4以下	夏秋4以子	重度4回市	開放4以下	富康4以下	重度4以下	管理4回节
	丹波	篠山市	震康4級下	嘉度4以下	夏康4以7	有重度4以下	震塵4以下	業課4位で	震康4以下	表達4以下	高度4以下	重度4以下	書度有以下	東京4以下	嘉度4以下	要度4以下	震度5強	武度6 弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	変度5時	震度5強	変度5弱	震度5強	震度5強	震度6弱	震度6弱	震度5強
	1209822	<u> </u>	TRACT	20.02	2.00 C	TRAN	変更を紹	豊康5朝	新田5県 二市市5県	20 10 10 17 10 17 10 17 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	ALC: SH	TRAUT	THE REAL PROPERTY AND	TRAUT.	THAN T	TRANT.	高度5强	直度5強	直度5强	直度5強	續度6弱	新度6 聲	直度5强	蜜莲6弱	直度5强	藏旗6錢	截度6强	直度6袋	波度6 辑	相撲6錢
淡路	淡路	あわじ市	開催の時	加速の強	重要の発	2010 G24	ALL ALCON	展接5號	TRACE	ALL ON	THAT -	THAN T	The survey	TRAN	The age of	With a commit	THE ALL P	The April	THAC -	THE ALC: N	THE ALL P	TRAIL F	20 4 A 14	TTANK .	1019 4 10 Y	THAT	THE ALL P	Bran I	T T ALL	The a pr
ALC: PH	NO. PH	淡路市	震度5強	震度6弱	震度5強	震康6弱	震度5端	震度6强	震度6强	震康6强	震度6强	震度6弱	RAAST	S#411 F	教育441 8	雪波4出下	常康6张	震度6號	震度5端	変産の務	震度6弹	設度5強	業余 40-7	S#407	S19 414 1	業業4日本	第度411 1	東京 4世王	28411	384U F

表 2.2.1(3) 兵庫県において影響を及ぼすと想定される地震による各市町内震度の最大値

_			T									活	断層(主	要)												活	断層(3	主要以外	4)		
	凡	例																													
		震度5弱 震度5強 震度6弱 震度6強 震度7		大阪湾	断層帯		ц	山田断層	ř带 (主音	fB)	山田 (郷村	所層帯 所層帯)	花折り	所層帯中	中南部	2	木津川	断層帯		奈	良盆地剪	東緑断層	層帯		御所谷	断層帯		養父	断層帯	鳥取	又地震
			4	м	75		<u> </u>	M	7.4		м	7.4		M7.4			м	73			M	7.4			M	7.2		м	7.0	M	17.2
地域名	県民局名	市町名	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case1	case2	case3	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case3	case4	case1	case2	case1	case2
	神戸	神戸市	業業7	227	業業7	227	高度4以下	管理有些平	查查4以7	雷度4出于	言意4世下	霍撒4硅于	震度5強	震度5強	雷度5弱	新成 44.5	富康4年下	高峰4以下	管理412下	震度5强	重度5強	震度6強	震度5強	震度5強	震度6弱	震度5強	震度5強	国度 4項下	国际4887	氟建412.7	富康4川下
		尼崎市	需度6弱	雲度6弱	震度6强	震度6弱	要進4以下	密度411下	营康4以7	雷盘4以下	書度4以下	雲度4以下	雲度6弱	震度6弱	震度6弱	震度5強	震度5强	震度5强	震度5强	震度6弱	雲度6弱	震度6弱	震度6弱	震度5强	震度6強	震度5强	震度5強	國連升與下	酒度4川平	家康 4117	夏度4出于
	阪神南	西宮市	震度6弱	雲度6弱	震度6弱	霍度6弱	重度4四下	着住4日下	雲達4回7	當度4以下	當里4UT	霍维443下	震度5強	震度5强	震度5强	震度5强	常度5弱	電度5縣	震度5弱	震度5强	震度5强	震度5強	震度6弱	震度5強	家度5强	震度5强	震度5強	面積4447	夏唐4四下	常度4回7	富康4四平
		芦屋市	震度6强	震度6弱	震度6強	震度6強	書畫4冊下	変使4以下	置像4以7	置度434下	震使4些下	直度 4祖王	震度5強	震度5強	変換5 弱	黨律4以下	氯度4以下	富康4以下	夏度433年	震度5強	震度5強	震度5強	震度6强	震度5強	震度5強	震度5強	震度5強	高度4以7	資産4単下	常度4以下	酒業4以下
阪神・神戸		伊丹市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	室進4位下	着度464下	吉生 4回7	調査斗以下	雪提4川下	重度4址下	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度5強	震度5强	震度5時	震度6强	震度5強	震度5強	震度6發	震度5強	震度5強	震度5強	震度5強	震進4日下	24447	Print days of	雪重4四下
	阪豆を由った	玉琢巾	変度5時	直接6時	直接6時	東度6時	東京4川下	定理すた下	開催されて	市理4出下	THE ALL T	11 11 4 14 F	直接5強	南度5張 御曲c28	直度5%	変更5時	南度5時	直接の時	重建の時	10.000 M	夏度り強	変更り強	直接0強	直接5號	夜夜0強	直接5張	夏度0月 一日本に得	THE AVE	0.2.4m P	R R ALL Y	TRANT
	BXTHIL	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	戦後の強	設建の強	現在の強	産液 538	TRAUT	TRAL T	TRACT.		THALT	現現中は下	RG DH	転送の湯	直接 0 時	THACK.	ML ROSS	TRAUT.	10 10 10 10 10	直接0號	現在の強	M ROM	- 現後95	田田の田 田田の田	20205	重要の数	田田 の見 田田	THE ALL IN	THE ALL T	TRALIT	TRAUT
		法名川町	THAN T	THE ALL P	THACT	TRANT	調査ない下	20 4 4 1 F	20407	THE ALL	THE ALL T	開催なける	常達の現	教徒ないで		20440F	TRANT	TRAUT	284411	2 RAUT	THE ACLES	2 # 4 K T	THE ALL T	間度5端	常住5後	間接5強	雷度5强	14401	TRANT	204417	TRAUT
		明石市	11117	2 #7	287	227	堂市4以下	震速40 下	二次 4117	##411T	豊富ない下	営業 4は下		新橋411子	THE ADDR	BORALLER	田康 4日下	28441	双唐 4以下	豊康4川下	豊康4日下	金建4四下	業務4月7	震度5強	雷度5號	雪推5強	震度5強	22407	284417	T	2044
		加古川市	震度6強	雪度6號	震度6號	震度6強	黄素4四下	電線4回下	憲章4川7	市在 4川下	富全4以下	富建4四下	224UT	2844WK	224117	##44AT	T#487	要是4出下	农住4出下	夏度4月下	酒康4日下	224H 7	田東4日下	震度5強	震度6弱	雲度5強	震度6弱	田康 4以下	224447	2844127	5 2844HT
	東播磨	高砂市	震度6弱	雪皮6弱	震度6弱	震度6弱	雷鹿4川下	常度4日下	图: 4117	雷度4以下	重度4日下	意度4以下	TRAILT	意度4以下	28484 F	震塵4以下	22411 F	重度4以下	業産4以下	面積4回下	常像4月下	重度4以下	當産4以下	震度5強	震度6強	震度6強	震度6強	TRAUT	28447	2844127	TRAUT
4	1.0.000.000	稲美町	震度6弱	震度6强	震度6強	震度6強	夏季4日下	家住441下	設備 4107	面像4出于	雷霆4四下	製作444下	■限4以下	RRAN F	284117	置像444下	前唐4日 下	夏唐4出于	家康4回下	酒業 4月1下	面像4出了	富度4四下	置推434下	震波5弱	家度5強	震度5强	震度5強	28 4411	224487	2844	E 2844
		播磨町	震度6弱	震度6强	震度6强	震度6强	雲康4県下	家族484年	酒業4月7	富度481下	赢住4些下	直度4日下	黄素444平	花供4以下	震度4川下	震催44日	震度4年末	家住4山下	電度4叫下	業車4 40円	家康441下	震康4级于	重度4以下	震度5強	震度5強	震度5强	震度5強	双度40 下	TRAUT	常度4417	F 景康4以下
	-	姫路市	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	堂康4以下	温度411下	震速 4107	業産4以下	雪道 谷以下	震速4以下	會建4世市	豊康4以下	重度4以下	高度 4出下	震速431平	室建斗以下	震性411千	重度4以下	管理441下	震速4以下	憲建4以下	震度5強	震度5強	震度5強	震度6強	豊産る日下	震速6時	清佳413.7	- 国政4出示
	ch 197 (67	神河町	着度4号下	重建4日下	電燈441下	家康4位7	雷维4出下	復産4日本	置度4以7	酒童4日下	重建4世7	霍里4位下	雷盘4以下	着我会动下	温度4は下	羅鹿4級下	雷度4位下	霍童4城下	混进412 下	重度4届下	君推461下	雷建4曲下	霍童4日下	震度6弱	震度5强	震度6弱	震度5強	震速5弱	濃度6弱	司住 412.7	- 重要444下
	甲抽磨	市川町	密度 4847	284ELT	震度4以下	国康 4827	雷度4以下	常度4日下	雷度48.7	家度4屆下	震度4回下	囊鹰4段下	雷康4山下	意度484下	震度481年	震塵4.03下	業度4 編下	王康 488 节	清理 450 年	雷度4周节	温度40. 7	雷理工队下	震產4以下	震度5弱	震度6強	震度6弱	震度5強	覆度4月15	20 4U F	清理 492 1	國産4四下
		福崎町	電信4日下	2 gaus	mm 444 7	E#4447	家童4四下	業成444下	富康 4川7	酒堂4出于	雪虛4以下	案情 414下	雷度4从下	取信 441下	224117	業成444下	雷唐4日下	重盘4以下	業性446下	置像4川下	推推461下	重要444万	霍建4日下	震度5弱	震度5強	震度5弱	震度5強	家業 443下	司建444 下	富建-4467	TRANT.
		相生市	意味有以下	震使中国不	業度4以下	変産4以下	重度各级不	業度411下	業在 4以7	家族4科市	震撲4日下	實資4以下	重要4以下	截藏 4 11 15	震度481下	黨會4以下	R#4 47	氯酸4以下	常度4以下	重度分開下	常度 4以下	震痛4日不	重度4以下	震性4以下	RA AMP	震度4川市	重度4以下	截度4年1	電線 4日 5	業度4月17	- 国家中国下
the pix		たつの市	震度6弱	震度5強	震度5強	震度5强	堂樓4以下	酒樓411下	雷度4以7	耄慮4以于	臺進44下	营业4以下	當進4世市	豐豐4以古	重度4以下	震度4以下	濃度413 T	意度4以下	震性411下	重度4以下	靠產441下	震速4以下	憲連4以下	置權434不	整理されて	雪屋4以下	靠座4以下	注注4日 1	震度6弱	清佳4103	· 国政4出示
101/45		赤穂市	着做4以下	直建4世下	羅隆461下	変産4以下	霍士4世下	霍建444年	置度4以7	酒堂4日下	雪宝4世下	霍里4位下	置度4以下	着唐4月下	直達413 下	羅達4.8下	雷童4以下	震震4以下	氯建40.5	霍雷4从下	常康4日下	案件4以下	教養4時下	雷康4以下	臺灣市場市	雷度4年下	霍康4些下	調査4年下	電燈4日下	業建4127	至144日下
	西播磨	宍粟市	常理有以下	意識されて	震度4以下	表度4317	重度4以下	着理ASLF	雷童4川7	常理444下	重建4以下	當他4.0.下	當麼4.00平	黄度4以下	震盪中以下	蒙康4瓜玉	電燈482下	重度4以下	撤費年以下	重建4加下	常理441下	重度4以下	常產4以下	首度4瓜下	意度4以下	震量4以下	震度6弱	素度6弱	液産5県	常使412.7	蒙康6韩
		太子町	震度5強	震度5强	震度5強	震度5強	直建4回下	家住442下	雷士4川7	酒堂4出于	富全4世下	霍维444下	管理4以下	設備4日下	重度4117	雇住4以下	富康4 444年	面積4曲下	农住4以下	重度有以下	管理44下	雷達414下	霍達413下	置建4以下	製作4以下	置量4以下	直座444下	富重412年	酒積4出下	収度4127	重度4時不
		上郡町	國際4月17	震運4川市	重建4以下	家住4日3	重度合用下	業務411年	業在 4以7	家族4県下	震救4日下	直度 4以下	當業4以下	RANT	震盪488下	黨會4級下	意味4日下	蒙藏4四王	常推 43 437	國黨有限不	TRAUT.	2 #487	菌素450下	新闻 名用于	當會4日下	建度4月 7日	氯化4以下	変化の日本	28 48.7	TH ART	國會4周下
		佐用町	遭难4以下	意度4以下	直接4以下	煮生4以 7	重度4以下	震度4以下	當進4以7	管度441下	倉建4以下	嘉建4以下	實達440年	整建441万	當僅4以下	靠進4以下	岩建40 下	意度不以下	放進4回下	重度4出下	着生4BIT	直接4以下	富维4世下	實證4以下	重建4以下	查座4G 下	靠度4以下	荒庄4以 7	意度4以下	當進4回下	「震速4出下
		西脇市	着度4以下	高度4日下	密建444下	富建4级7	雷维4世下	湿度4日下	查集4以7	調業4日下	雪雲本以下	置建433万	置章4以下	着此4以下	温度4以下	推维 斗软下	衛生4以下	雷藏4出下	管理4日下	雪禽牛島下	習慣不同下	室會4以下	觀測4屆下	雷度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	調度4與不	雷旗4日下	第124日7	2 建油中起作
		三木市	震度6強	震度6強	震度6弱	震度6強	重度4以下.	着建45L节	雷康4川7	當量4月4月	重建4以于	當産4以下	雷爆4从下	波理 4以下	國國為以作	震境斗乐于	常准4以下	重度4以下	夏建450下	重建4以下	重建441下	震度4年下	重度4以下	雲度6弱	震度6弱	置度6弱	震度6弱	E E A GUT	重度4項下	梁建444.7	E E E A LA F
	北播磨	小野市	電度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6弱	重度4出下	室住441下	重度4从7	雷建4以下	重要4以下	直達4137	宣理412下	石橋 石川下	直度4以下	電燈444下	管理4以下	雲建4出下	室康4世市	重度4从下	着成4日下	言語も以下	設備す時下	震度5強	震度6發	震度6弱	震度6弱	査査4447	2.2.4WT	電像4857	有 重度 4 局 不
		加西市	電度5弱	震度5强	震度5强	震度5强	重康4冊下	電信 434 年	電像4回7	常准4以下	當課4日干	重度412千	室積4日下	教教 4日下	業度4川下	常像4以下	TRANT	氯康4冊下	信用 4111年	國旗4川市	RRAUT	童雄48F	重度4以不	震度5強	震度5强	電度5強	震度5强	2244	22444	電像400	80407
		加東市	震度5强	直度6發	直度6弱	雇度5强	重進4日下	変換すい下	三連4 207	THEATEN P	EE4UT	直建4以下	E BAUT	THE REAL PROPERTY.	THE EIGHT	1812 4 HUT	三連48 下	ERANT.	88484		TRAFIE	E EAL T	BIRANCE:	変度6%	震度6%	変度6強	変度6強	STRAIL!	BRAD P	and a later	ERAN P
		多可町	新煤410-7	-Inclusi,	電線4回下	資産中位す				and a set		# # 4 4 F	室積4月下	相保4日17	a la cate a la	THREE IN T	新課社会工	有度4世下	11111111111	重要4日下	習種수타가	三日中川下	管理4417	哀度5强	直度6時	直度6算	嘉度6篇	東東5番	展開の目	11140.0	a a a a a a a a a a a a a a a a a a a
		豊岡市	THE ALL IS		御理4以下	THE ALL Y	蜜腹6號	高度6强	変種6強	蜜蛋6强	変度6強	武度6弱	TEAR.	BIRALL F	Contraction of the	THE ALL P			<u>現</u> 種4時代	11246.05		a man	温度4以下	直建644	高度54	温度5件	高度6件	武庫6朝	変度6弊	ALL ALL N	温度5時
	伯爾	<u>養文</u> 巾 胡夾吉	100 A 44 1		1818 4 UL Y	CHEROLOGY .	直接69	直接6時	変建65	変更の録	東度5葉	正度り強	E RALLT	CONTRACTOR OF		mintel Lan	(1)=412 () (1)	TRAM P	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	RIR411	THE ALL T	設置するで	TRAM P	変換し物	THE R. L.		東度0時	直度5時	THE R LEWIS	Machine
伯匡, 见波		朝木巾	THE APPEND	AND DESCRIPTION OF	10 4 4 1 1 1		版度0時 第次6課	直接03	一般度0時 世史の現	原族の弱	根 使 つ 残	単位 23	THE ALL P	THE ALL T	10 0 A 11 12	and the second second	2012 C 10 10	and the second s	THE ALL OF	東京大阪市	1212-418 T	調理中国で	100 all 14 14 14	MILE D SH	調査の時	RES SI	ALC: NO.	設備の時	御史の時		T ALL
但局 开放		省夫町 新潟良町	THE ADDRESS		TO ALL T		風度0時	設建の料	肥度の時	服用の物	設建の料	服後0時 四後18		THE ALLER			THE ALL P		10 10 10 10 10 10	意味られて	TRAL P		20 4 A 14 15	10 10 4 10 10 10		2044UT		変換の時	設施り強	200	常体らな
		新/皿水回	THE ALL P	TRANS	TRACK T	TRACT	TRANT	ALCO DE	TO ALLON	TRAUS .	Trade T	THE ALL OF	TRACT.	TRANK C	TRALLY	TRANK D	-	TRANT	THE ALL T	E BANK	TRACE.	TRANT	Trans	言葉の彼	雷度白旗	雷律名建	言作らな	TRANK	T. C. L.	and other	E TRANT
	丹波		22401	28407	常度5萬	2254	雷律5弹	雷度5弹	2254	雷度5弹	雷度5四	業業5株	-	双皮 411下	TRAD-	新市 441下	TRANT.	田市 411下	TRAUT	酒坊ない下	TRANT	2 1 4 4 4 Y	22407	雪樓6發	雷康6張	雷度6建	雷康6四	雷库5端	雷度5端	B 18-41-1	
		洲本市	震度后端	雷度6禄	雷律6禄	雷度6神	TRANT	TRACE.	28.4m	RRANT	TRAIL T	Raun	TRADT	TRANT	TRANT.	TRAUE	TRANT	DR40T	2 TAUX	TRANT.	TRAN T	ERANT	BRANN	Rann	TTANT	TRANT	TRAUT	W MARIN	THE OWNER	B # 400	TRAUT
淡路	淡路	南あわじ市	震性の強	黄度6器	雷度6裂	常度6社	T RACING	Riter	23 4 1 1	R#410	-	TH ALL	TRANK!	RRAIN	TRAUT	ALC: NO	S#411 T	E 18 4 11 1	T #4117	Bit attan	Stan .	教育 4日11	84487	載度ASIT	## 411 F	Bit 40.0	The age	E 1 400	T PARTY	5844	TRANT.
		淡路市	227	247	247	297	224407	王文 4世王	T#407	東京4川市	29407	##4UT	TTAUT	東京4日下		234UT	224UT	2 2 4 4 H T		東京4月 下	##40 F	1 1 4 4 W 1	224um	田津5社	震度5號	田津5祖	震度5体	2 × 4 10 1	2940 1	111141	2#4WT

表 2.2.1(4) 兵庫県において影響を及ぼすと想定される地震による各市町内震度の最大値

	凡 震震震震震震	例 度4以下 夏度5弱 夏度6弱 夏度6强 夏度7	M6.9直下 地震(全 メッシュ)	海溝型地震、 M6.9直下地 震を除いた活 断層地震によ る震度の最大 値
地域名	県民局名	市町名	M6.9	
	神戸	神戸市	震度7	震度7
		尼崎市	震度7	震度7
	阪神南	西宮市	震度7	震度7
		芦屋市	震度7	震度7
阪神·神戸		伊丹市	震度7	震度7
	100000000000000000000000000000000000000	宝塚市	震度6強	震度7
	阪神北	川西市	震度6強	震度7
		三田市	震度6強	震度6強
		猪名川町	震度6強	震度6強
		明石市	震度7	震度7
		加古川市	震度7	震度7
	東播磨	高砂市	震度7	震度7
		稲美町	震度6強	震度7
		播磨町	震度7	震度7
		姫路市	震度7	霊度7
	中播磨	神河町	震度6強	震度5強
	1 7475	市川町	震度6強	震度6弱
		福崎町	震度6強	震度6弱
		相生市	震度7	震度6弱
播磨		たつの市	震度7	震度7
		赤穂市	震度7	震度6弱
		宍粟市	震度6強	震度6強
		太子町	震度7	震度7
		上郡町	震度6強	震度5強
		佐用町	震度6強	震度6強
		四脇市	震度6強	震度6弱
		二不市	震度6強	<u> </u>
	北播磨	小野市	震度6強	震度7
		加四巾	辰度6强	康度 /
		加泉市	辰度6强 ● 使 6 強	版读/
		多可問 曲四士	辰度6 强	度度6期
		一 壹 両 巾 兼 公 士	服展/ ())))))))))))))))))))))))))))))))))))	度度り強
	伯匡	食入印 胡亚士	辰度り強	度度の羽
伯匡 回波	巨两		反反り強	辰度の羽
直 而"开放		 新担良町	(法)成 7	度度の羽
	Sec. Microsoft	初迎水町	震度の改	歴史の地
	丹波	11年山中	度度の強	度度の強
		开放巾 洲太古	10.1% /	成後の強
淡路	淡路	あわりま		(型)(東)() (型)(東)()
IN THE	10 CM	淡路市	震度7	震度7
		AN APPENDIX		

3 液状化危険度予測結果

ここでの図は、各地において液状化が極めて高い確率で起こる震度(液状化限界震度) の分布を示したものである。

各地において標記の限界震度になると極めて高い確率で液状化が発生すると予想され る。この限界震度が低い地域は、小さい震度でも液状化が発生することとなるため、液状 化危険度の高い地域ということになる。逆に、限界震度が高い地域は、大きな震度になら ないと液状化が発生しないため、液状化危険度の低い地域ということになる。

この分布は地震の種類によって変わる。

液状化には、揺れの継続時間が大きく影響するため、海溝型地震のように強い揺れが長 時間継続するような地震では震度が小さくても液状化が発生しやすくなる。内陸型地震の ように強く揺れても継続時間が短い地震では、かなり大きな震度にならなければ液状化は 発生しない。

このため、海溝型地震と内陸型地震とで結果が異なり、海溝型地震のほうが液状化を発 生しやすいといえる。

3.1 海溝型地震による液状化限界震度分布



3.2 内陸型地震による液状化限界震度分布



4 参考資料

4.1 断層モデルとパラメータ

4.1.1 東海・東南海・南海地震、東南海・南海地震、南海地震

	1			/	
	項目		東海・東南海・ 南海	東南海・南海	南海
(全体)	南海	面積 (km ²)	約37000	約37000	約37000
		地震モーメント(Nm)	8.76E+21	8.76E+21	8.76E+21
S波速度Vs		平均すべり量 (m)	5.8	5.8	5.8
3.8(km/s)		応力パラメータ⊿σ(MPa)	3.0	3.0	3.0
		マク゛ニチュート゛ Mw	8.6	8.6	8.6
平均密度ρ	東南海	面積 (km ²)	約14600	約15800	
$2.8(g/cm^3)$		地震モーメント(Nm)	2.30E+21	2.45E+21	_
		平均すべり量 (m)	3.8	3.8	_
剛性率μ		応力パラメータ/o(MPa)	3.0	3.0	—
$4.1E+10(N/m^2)$		マク゛ニチュート゛ \mathbf{Mw}	8.2	8.2	—
	東海	面積 (km ²)	約9400	_	—
破壊伝播速度Vr		地震モーメント(Nm)	1.10E+21	—	—
2.7(km/s)		平均すべり量 (m)	2.9	—	—
		応力パラメータ⊿σ(MPa)	3.0	—	—
		マク゛ニチュート゛ Mw	8.0	—	—
	全体	面積 (km ²)	約61000	約52800	約37000
		地震モーメント(Nm)	1.22E+22	1.12E+22	8.76E+21
		応力パラメータ <i>△</i> σ(MPa)	3.0	3.0	3.0
		マク゛ニチュート゛ \mathbf{Mw}	8.7	8.6	8.6
(背景領域)	南海	面積 (km ²)	約28100	約28100	約28100
		地震モーメント(Nm)	4.60E+21	4.60E+21	4.60E+21
		平均すべり量 (m)	4.0	4.0	4.0
		応力パラメータ/o(MPa)	2.4	2.4	2.4
	東南海	面積 (km ²)	約11100	約11800	—
		地震モーメント(Nm)	1.21E+21	1.29E+21	—
		平均すべり量 (m)	2.7	2.7	—
		応力パラメータ⊿ơ(MPa)	2.5	2.4	—
	東海	面積(km ²)	約6500	_	_
		地震モーメント(Nm)	4.72E+20	—	—
		平均すべり量 (m)	1.8	—	—
		応力パラメータ/o(MPa)	2.3	—	—

表 4.1.1(1) 断層パラメータ(その1)

	項目		東海・東南海・ 南海	東南海・南海	南海
アスペリティ 1		面積 (km ²) 地震チーメント(Nm)	1222 4 32E+20	1222 4 32E+20	1222 4 32E+20
		平均すべり量 (m) 応力パラメータ ∕/g(MPa)	8.6 24.6	8.6 24.6	8.6 24.6
アスペリティ2	2-1	面積 (km ²) 地震モーメント(Nm)	2758 1 46E+21	2758 1 46E+21	2758 1 $46E+21$
		エカン ラメータ / g(MPa) 「 ロン ラメータ / g(MPa)	12.9	12.9	12.9
	2-2	面積 (km ²)	1226	1226	1226
		地震セーメント(INIII) 平均すべり量 (m) 広力 ⁽¹ シュール / g(MDa)	4.54E+20 8.6	4.54E+20 8.6	4.34E+20 8.6
アスペリティ 3		<u> 応力パリパリンし</u> (MFa) 面積 (km ²)	2963	2963	2963
		地震モーメント(Nm) 平均すべり量 (m)	1.63E+21 13.4	1.63E+21 13.4	1.63E+21 13.4
アスペリティ 4		応力パラメータ⊿o(MPa) 面積(km²)	24.6 715	24.6 715	24.6 715
		地震モーメント(Nm) 平均すべり量 (m)	1.93E+20 6.6	1.93E+20 6.6	1.93E+20 6.6
77.0115.1		応力パラメータ <u>⊿</u> σ(MPa)	24.6	24.6	24.6
アスペリティ 5		面積 (km ²) 地震モーメント(Nm)	1308 4.26E+20	1308 4.26E+20	_
		平均すべり量 (m) 応力パラメータ⊿o(MPa)	$7.9 \\ 21.9$	$7.9 \\ 21.9$	_
アスペリティ 6		面積 (km ²) 地震モーメント(Nm)	1107 3.31E+20	1107 3.31E+20	
		平均すべり量 (m) 応力パラメータ /o(MPa)	$7.3 \\ 21.9$	$7.3 \\ 21.9$	
アスペリティ 7		面積 (km ²) 地震エーズント(Nm)	1107 2 21E+20	1107 2 21 E + 20	—
		地震セーメント(INIII) 平均すべり量 (m) 広力パシュータ (m)	5.51E+20 7.3	5.51E+20 7.3	_
アスペリティ 8		<u> 応力パリパリンし</u> (MFa) 面積 (km ²)		402	
		地震モーメント(Nm) 平均すべり量 (m)	_	7.27E+19 4.3	_
アスペリティ9	9-1	応刀ヘ フメータ∠lσ(MPa) 面積 (km²)		21.9	
		地震モーメント(Nm) 平均すべり量 (m)	3.09E+20 6.9	_	_
	0-2	応力パラメータ⊿o(MPa) 面積 (km²)	21.6		
	52	面積 (km) 地震モーメント(Nm) 亚物士 ご ⁽⁾ 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	1.03E+20	—	—
		平均9 ペリ重 (m) 応力パラメータ⊿o(MPa)	4.8 21.6		
アスペリティ10	10-1	面積 (km²) 地震モーメント(Nm)	$529 \\ 1.05E+20$	_	
		平均すべり量 (m) 応力パラメータ⊿σ(MPa)	$\begin{array}{c} 4.8\\21.6\end{array}$	_	_
	10-2	面積 (km ²) 地震モーメント(Nm)	254 3 49E+19		
		平均すべり量 (m) 応力パラメータ /g(MPa)	3.4	_	_
アスペリティ11	11-1	面積 (km ²) 地震チーメント(Nm)	344 5 50E+19		
		平均すべり量 (m) 応力 ² ラメータ /a(MPa)	3.9 91 A	—	—
	11-2	面積 (km ²)	175		
		平均すべり量 (m) 応力パラメータ /σ(MPa)	2.001119		

表 4.1.1(2) 断層パラメータ(その2)



図 4.1.1 震源位置および断層モデル

4.1.2 有馬一高槻断層帯

1) 地震諸元

表 4.1.2 地震諸元

3—k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生 層 の深さ
7601	有馬一高槻	右横ずれ断層	長期 評価	7.5 ± 0.5	約55km	不明	北傾斜 高角	不明
	町層帯	上下変位伴う	モデ ル化	$M_{ m w}$ 7.1	60 km	16 km	90度	1•16km

	表	4.	1.3	断層モ	デルの	パラメ	ータ
--	---	----	-----	-----	-----	-----	----

		想定有馬-高	拟断層帯地震
断層パラメータ	設定方法		
		西側	束例
		北線34	* 54′
時間帶原息		東経13	5° 41′
活断層長さL	長期評価による	55	km
気象庁マグニチュード M _{IMA}		7	.7
地震モーメントM。	$\log M_0 = 1.17M_{\rm JMA} + 10.72$	5.87E+19	Nm
モーメントマグニチュード $M_{\rm w}$	$M_{\rm w} \!=\! (\log M_0 * 9.1) / 1.5$	7	.1
新聞まデル問わ	地中の新聞手デル面占位素	北緯34°47′47.2″	北緯34°50′59.8″
面面モデル原意	地中の画層モデル原意位置	東程135°3′41.6″	東経135°22′59.7″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km	1 km
断層モデル長さ L _{model}	断展形状に従い設定	30 km	30 km
断層モデル幅 ff model	ルールに従い設定	16 km	16 km
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	480 km ²	480 km ²
走向 0	長期評価の原点と屈曲点を結ぶ方向	N 78.6" E	N 78.6° E
傾斜角 8	高角北倾斜	90*	90*
すべり角 y	右横ずれ。上下成分を伴う	180°	180°
髀的応力降下量 ∆♂	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.8	MPa
平均すべり量D	$D=M_0/(\mu\;S_{\rm model})$	2.0	m
剛性率 µ	$\mu \equiv \rho \ \beta^2$	3.12E+10	N/m ²
密度 //	震源における密度	2700.0	kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4	km/s
破壊伝播速度 V,	$V_r = 0.72 \cdot β$ (Geller(1976) ξψ)	2.4	km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{10}$	2.06E+19	N•m/s ²
W 2.5	55km		2.5 E GL 000
$\begin{array}{c} \sigma_{a} = 46.6 \text{ km}^{2} \\ \sigma_{b} = 13.6 \text{ km}^{2} \\ \sigma_{a} = 13.6 \text{ km}^{2} \\ \sigma_{a} = 31.8 \text{ km}^{2} \\ \sigma_{b} = -3.1 \text{ km}^{2} \\ \sigma_{b} = -3.$	$\begin{array}{c c} S_{g} = 113 \ \mathrm{km}^{2} & S_{g} \\ (12 \ \mathrm{km} \times 10 \ \mathrm{km}) & (11 \ \mathrm{km}) \\ \sigma_{g} = 13.6 \ \mathrm{MPa} & \sigma_{g} \\ D_{g} = 4.4 \ \mathrm{m} & 0 \ \mathrm{km} \\ \mathrm{NPa} & 0 \ \mathrm{sm} \end{array}$	$\begin{array}{c} z_{1} = 113.3 \mathrm{km}^{2} & \overline{z}_{2} = 56.0 \\ \mathrm{Shm} \times 10 \mathrm{km} \\ p_{a} = 13.6 \mathrm{MPa} & \overline{\sigma}_{a} = 10.0 \\ D_{a} = 3.1 \\ \overline{\sigma}_{b} = 1.6 & \overline{\sigma}_{b} = 1.6 \\ \overline{\sigma}_{b} = 1.6 & \overline{\sigma}_{b} = 1.6 \\ \mathrm{MPa} & \overline{\sigma}_{b} = 1.6 \\ \mathrm$	1 16m 16m 16m 1m ² (Bit)/dit 1.00m 1.00m 1m ² 1.00m 1.00m 1.00m
W			E
	55km		425 gL
			(時所加) (時所加) 上の証明)
$\sigma_d = 3.6 \text{ MPs}$ $\sigma_g = 13.6 \text{ MPs}$ $D_d = 3.1 \text{ m}$	$ \begin{array}{c c} S_{g} = 113.3 {\rm km}^{2} & \sigma_{g} = 1 \\ (12 {\rm km} \times 10 {\rm km}) & \sigma_{g} = 1 \\ \sigma_{g} = 13.6 {\rm MPa} & D_{g} = 0 \\ D_{g} = 4.4 {\rm m} & 0 \\ \end{array} $	$\begin{array}{c c} x \mbox{ s} \mbox{ margin} \\ x \mbox{ s} \mbox{ margin} \\ 3.6 \mbox{ MPa} \\ (12 \mbox{ m x 10 \mbox{ m h}} \\ (3.1 \mbox{ m m} \\ \sigma_{g} = 13.6 \mbox{ MP} \\ D_{g} = 4.4 \mbox{ m m} \\ \end{array}$	イ 1 (Skm (出) (注)(小)(前) トーパン(注意)(小)(注意)(小)(注意)(小)(注意)(小)(注意)(小)(注意)(小)(注意)(注意)(注意)(注意)(注意)(注意)(注意)(注意)(注意)(注意
7 - 73 $D = 1$	6 MPa 0.8 m 	$ \begin{array}{c c} \sigma_b = 1.4 \text{ MPn} \\ \hline D = 0.8 \text{ m} \\ \end{array} $	<u>za</u>

図 4.1.2 微視的断層モデル図

4.1.3 六甲·淡路島断層帯(六甲山地南縁-淡路島東岸)

1) 地震諸元

表 4.1.4 地震諸元

a⊷k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7901	六甲•淡路 島断層帯 主部 六甲山地	主として右横ずれ断層で北西	長期 評価	7.9程度	約71km	15·20km 程度, 15km程度	北西傾斜50- 70度,北西傾 斜高角度	下限 15km
	南緑 - 淡 路島東岸 区間	周囲尾の逆断 層成分を伴う	モデ ル化	M _w 7.3	74km	18km	北西倾斜 60度	1·16km

2) 断層モデル

表 4.1.5 断層モデルのパラメータ

		想定六甲・淡鹊	各島新層帯地震	
断層バラメータ	設定方法	生 六甲山地南縁─	部 淡路島東岸区間	
		北東側	南東側	
医鼻子		北緯34	50′	
NU VIL STATISTICS	#1 90月10月1日	東軽13	5° 31′	
活断層長さし	DOM IT THIS O	71	km	
気象庁マグニチュード M _{IMA}		7	.9	
地震モーメントM。	$\log M_0 = 1.17M_{\rm JMA} + 10.72$	9.67E+19	Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_{ m w} \!=\! (\log M_0$ - 9.1) / 1.5	7	.3	
医鼻子后间的表	統由の影響を考えてあるが来	北緯34°50′43.6″	北緯34°39′24.4″	
費用モナル源泉	毛中の画層モデル原意位直	東経135°31′34.9″	東経135°12′20.1″	
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km	1 km	
断層モデル長さ L _{model}	ルールに従い設定	36 km	38 km	
断層モデル幅 F ^r model	ルールに従い設定	18 km	18 km	
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	648 km²	684 km ²	
走向 //	長期評価の原点と屈曲点を結ぶ方向	N 234.5 E	N 234.5" E	
傾斜角 δ	(六甲山地南線)50-70°北西傾斜(約1km以浅) (淡路島東岸)高角度北西傾斜(約2~3km以浅)	60°	60°	
すべり角 γ	右横ずれ断層、北西側隆起の逆断層成分を伴う	180°	180°	
静的応力降下量 ∆σ	$\Delta\sigma=7/16\cdotM_0/R^3$	4.8	MPa	
平均すべり量D	$D=M_{0}/(\muS_{\rm model}$)	2.3	m	
則性 率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10	N/m ²	
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³		
S波速度 /۶	震源におけるS波速度	3.4 km/s		
破壊伝播速度 17,	$V_t = 0.72 \cdot \beta \text{ (Geller(1976)})$	2.4 km/s		
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	2.43E+19	N·m/s ²	



	_	119	2	
ſ	}		1.15 (B)(icm 夏山 (四)(1)
		S. = 172 1km ² S. = 154 1km ² S. = 162 7km ² S. = 162 7km ²	1.17	12.75
		(10 km x 8 km) (14 km x 12 km) (14 km x 12 km) (10 km x 8 km) $\sigma_{g} = 13.6 MPa$ $\sigma_{g} = 13.6 MPa$ $\sigma_{g} = 13.6 MPa$ $\sigma_{g} = 13.6 MPa$	16km (169.8	n Kirtei
	_	$D_a = 3.6 \text{ m}$ $D_a = 5.1 \text{ m}$ $D_a = 5.3 \text{ m}$ $D_a = 5.3 \text{ m}$ $D_a = 3.8 \text{ m}$	E.C	A int
		ケース3 の=18309		
1	-	$D_{ij} = 10 \text{ m}$ 24 m		

図 4.1.3 微視的断層モデル図

4.1.4 六甲·淡路島断層帯(淡路島西岸)

1) 地震諸元

表 4.1.6 地震諸元

コード	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7902	六甲·淡路 島断層帯 主部	右横ずれ断層 で南東側隆起 の逆断層成分を	長期 評価	7.1程度	約23km	15km程度	南東傾斜 約80度	下限 15km
	淡路島西 岸区間	伴う	モデ ル化	$M_{ m w}$ 6.6	28km	16km	南東傾斜 80度	1•16km

2) 断層モデル

表 4.1.7 断層モデルのパラメータ

145 172 パニノーク	10. ウーナッキ	想定六甲•淡路島断層帯地震
町層ハラケータ	設定力成	主部 淡路島西岸区間
		北緯34°31′
町唐帝原品		東経134°52′
活断層長さん	☆ 別評価(~よる	23 km
気象庁マグニチュード M _{DMA}		7.1
地震モーメント M ₀	$\log {M_0} = 1.17{M_{\rm TMA}} + 10.72$	1.07E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w} = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6,6
新展エデル両方	地中の新展エデル原志位素	北緯34°29′32.2″
劇壇モデル原魚	地中の断層モデル原点位直	東経134°49′16.9″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	28 km
断層モデル幅 IF model	ルールに従い設定	16 km
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	448 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 58.8° E
傾斜角 δ	約80°南東傾斜(約600m以浅)	80°
すべり角 γ	右横ずれ断層、南東側隆起の逆断層成分を伴う	180°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	2.8 MPa
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\rm model})$	0.8 m
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壊伝播速度 V,	$V_r = 0.72 \cdot \beta \text{ (Geller(1976),ty)}$	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{-1/3}$	1.17E+19 N·m/s ²



図 4.1.4 微視的断層モデル図

4.1.5 六甲·淡路島断層帯(先山断層帯)

1) 地震諸元

表 4.1.8 地震諸元

3k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7903	先山断層帯	北西側隆起 の逆断屬	長期 評価	6.6程度	約12km	不明	北西傾斜	下限 15km
		XEIMI/E	モデ ル化	6.6	11km	11km	北西傾斜 45度	1·16km

2) 断層モデル

表 4.1.9 断層モデルのパラメータ

断層パラメータ	設定方法	先山断層帯
新國共同占		北緯34°25′
四百日永永	長期評価による	東経134°53'
活断層長さL		11.1km
新聞エビー回り	地中の新層エデル原占位署	北緯 34°25′26″
町宿こグを京		東経 134°52′19″
走向 <i>θ</i>	長期評価の原点を結ぶ方向	N213.6°E
傾斜角δ		45°
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1.0km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	11.0km
断層モデル幅 <i>W</i> _{model}		11.0km
断層モデル面積 <i>S_{model}</i>	ルールに従い設定	121.0km2
地震モーメントM。	<i>M</i> o=1.17M _{JMA} +10.72.	2.77E+18Nm
モーメントマグニチュードMw	$M_{\rm W} = (\log M_{\rm O} - 9.1) / 1.5$	6.2
気象庁マグニチュード <i>M</i> 」 _{MA}	M _{JMA} = log Mo - 10.72 / 1.17	6.6
静的応用力降下量 $\Delta \sigma$	$\Delta \sigma = 7/16 \times M_0/R^3$	17.5Mpa
密度 <i>ρ</i>	震源における密度	2700kg/m3
S波速度β	震源におけるS波速度	3.4km/s
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10N/m2
破壊伝播速度 Vr	Vr=0.72 × β (Geller (1976より))	2.4km/s
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu_{\text{model}}^S)$	0.4cm
短周期レベル	$A = 2.46 \times 10^{17} \times M_0^{1/3}$	7.44E+18



図 4.1.5 微視的断層モデル図

4.1.6 山崎断層帯(那岐山断層帯)

1) 地震諸元

表 4.1.10 地震諸元

3k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8201	那岐山	北側隆起の	長期 評価		(強震動評価の	断層モデルに	基づいてモデル化)	
	町層帯	断層	モデ ル化	$M_{ m w}$ 7.0	32km	26km	北傾斜 45度	2•21km

2) 断層モデル

		想定山崎断層帯地震 那岐山断層帯	
町層ハフメータ	設定方法		
w" 100 100 00 - b-		北緯35°9′	
斷層帝原息	長期評価による	東経134°13′	
活断層長さし		32 km	
	·····································	北鸫35°10′12″	
断層モテル原点	地中の町層モナル原点位置	東経134°13′1.2″	
走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 262.7°E	
傾斜角 δ	不明	45°	
すべり角 y	北側隆起の逆断層(右横ずれ成分を伴う)	90°	
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定	2 km	
断層モデル長さL _{model}	H17年強震動評価時に基づく	32 km	
断層モデル幅 W _{model}	H17年強震動評価時に基づく	26 km	
断層モデル面積 S _{model}	H17年強震動評価時に基づく	832 km ²	
地震モーメントM。	$M_0 \!=\! (8\!/\!4.24\!\times\!10^{11})^2\!\times\!10^{.7}$	3.85E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_{π}	$M_{\rm w} = (\log M_{\odot} - 9.1) / 1.5$	7.0	
気象庁マグニチュード M _{RMA}	$M_{BMA} = \log M_0 \cdot 10.72/1.17$	7.6	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.9 MPa	
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
破壞伝播速度 V _r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s	
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.5 m	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{-1/3}$	1.79E+19 N·m/s²	
		w	
		283km 2.0km (時)層面面 上の)距離)	

表 4.1.11 断層モデルのパラメータ



図 4.1.6 微視的断層モデル図

4.1.7 山崎断層帯(主部南東部)

1) 地震諸元

表 4.1.12 地震諸元

3k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8203	山崎断層帯	左檣ずれ断層	長期 評価		(強震動評価の	断層モデルに	藍づいてモデル化)	
	主部南東部		モデ ル化	$M_{ m w}6.7$	30 km	18km	90度	2·21km

2) 断層モデル

161日 パニュータ	約 (中土)+	想定山崎断層帯地震
町宿ハラメータ	設定方法	主部南東部
昭開世国 志		北緯34°47′
町唐帝原島	長期評価による	東経135°0′
活断層長さし		30 km
ビディング	時間モデル原占 地由の時間モデル原占約量	
町唐モナル原意	地中の断層モナル原急位直	東経135"0′0″
走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 310° E
倾斜角 δ	ほぼ垂直	90°
すべり角 y	左横ずれ断層	0°
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定	2 km
断層モデル長さL _{model}	H17年強震動評価時に基づく	30 km
断層モデル幅 W _{model}	H17年強震動評価時に基づく	18 km
断層モデル面積 S _{model}	H17年強震動評価時に基づく	540 km ²
地震モーメント M_0	$M_0\!=\!(8\!/\!4.24\!\times\!10^{11})^2\!\times\!10^{.7}$	1.62E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w}\!=\!(\log M_0\!-\!9.1)/1.5$	6.7
気象庁マグニチュード M _{.MA}	$M_{\rm BMA} \!\!=\! \log M_0 \!$	7.3
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.2 MPa
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
破壞伝播速度 V _r	$V_{\tau} = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976), ±Ψ)	2.4 km/s
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.0 m
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.34E+19 N·m/s ²

表 4.1.13 断層モデルのパラメータ



図 4.1.7 微視的断層モデル図

4.1.8 山崎断層帯(主部北西部)

1) 地震諸元

表 4.1.14 地震諸元

3—K	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8202	山崎断層帯	左横ずれ断層	長期 評価		(強震動評価の	断層モデルに	基づいてモデル化)	
	主部北西部		モデ ル化	$M_{ m w}7.1$	52km	18km	90度	2•21km

ビロジェノーク	±1.ch++++	想定山崎斷層帯地震
町唐ハウメーダ	設定方法	主部北西部
84° 889 494 (75) 34		北緯34°53′
斷層帝原息	長期評価による	東経134°43′
活断層長さし		52 km
新聞を受いてき	金子の新聞せばこ同志な強	北緯34°53′0″
罰層モデル原意	地中の断層モナル原意並直	東経134°43′0″
走向 <i>θ</i>	長期評価の原点を結ぶ方向	N 304° E
傾斜角 δ	ほぼ垂直	90*
すべり角ッ	左横ずれ断層	0°
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定	2 km
断層モデル長さL _{model}	H17年強震動評価時に基づく	52 km
断層モデル幅 IF model	H17年強震動評価時に基づく	18 km
断層モデル面積 S _{model}	H17年強震動評価時に基づく	936 km²
地震モーメントM。	${M_0}\!=\!(8/\!4.24\!\times\!10^{11})^2\!\times\!10^{.7}$	4.87E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w} \!=\! (\log M_0 \!-\! 9.1) / 1.5$	7.1
気象庁マグニチュードM _{.MA}	$M_{\rm BMA}{=}\log M_{0^*}10.72/1.17$	7.7
静的応力降下量 $\Delta \sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.1 MPa
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
破壊伝播速度 レ	$V_t = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976) & θ)	2.4 km/s
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.7 m
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{-1/3}$	1.94E+19 N·m/s ²

表 4.1.15 断層モデルのパラメータ



図 4.1.8 微視的断層モデル図

4.1.9 山崎断層帯(主部南東部·草谷断層)

1) 地震諸元

表 4.1.16 地震諸元

コード	断層名称	断層面の ずれの向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
890.9	山崎断層帯	十歩きょう素	長期 評価		(強震動評価の	断層モデルに	基づいてモデル化)	
8203	主部南東部	左使 9 7 b时唐	モデ ル化	$M_{ m w}6.7$	30km	18km	90度	2•21km
800.4	書の記屋	小油油」は、肥富	長期 評価	6.7程度	(強震動	評価の断層モラ	デルに基づいてモラ	デル化)
8204	早台町層	石傾著和鄧麗	モデ ル化	6.7	12km	12km	90度	2•21km

2) 断層モデル

表 4.1.17 断層モデルのパラメータ

		想定山崎斷層帯地震			
断層パラメータ	設定方法	主部南東會	郡・草谷断層		
		主部南東部	草谷断層		
the set and the core is	いった法律科教育ないます。インノロルト	北耦34°47′			
断磨带原点	H17年強振助評価時に巻つく居田点	東経に	35° 0'		
活断層長さし	長期評価による	44	l km		
新聞エデル面内	地中の断層モデル原点位置	北緯34°	47′0″		
断増モナル原原	(屈曲点とした位置)	東経135	° 0′ 0″		
走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 310° E	N 60° E		
傾斜角 δ	ほぼ垂直	90°	90°		
すべり角ッ	山崎断層帯主部南東部:左様ずれ断層 草谷断層:右様ずれ断層	0°	180°		
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びP波速度を参考に設定	2 km	2 km		
断層モデル長さL _{model}	H17年強震動評価時に基づく	30 km	14 km		
断層モデル幅 IF _{notel}	H17年強震動評価時に基づく	18 km	18 km		
断層モデル面積 S _{model}	H17年強震動評価時に基づく	792 km ²			
地震モーメントM。	$M_0 \!=\! (8\!\!\!/4.24 \times \! 10^{11})^2 \times \! 10^{\prime7}$	3.49E+19 Nm			
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	7	0.0		
気象庁マグニチュード M _{JMA}	$M_{\rm JMA} = \log M_{0}$ -10.72/1.17	7	1.5		
静的応力 降下量 ∆σ	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.8	MPa		
密度 ρ	震源における密度	2700.0) kg/m ³		
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4	l km/s		
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10	N/m ²		
破壊伝播速度 1/,	$V_r = 0.72 \cdot \beta \text{ (Geller(1976)} \downarrow \downarrow)$	2.4	⊧km/s		
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.4	i m		
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.73E+19	N·m/s ²		
w	44km	SE NE	SW GL		
			<u>2.0km</u> (断層面 上の距離)		





4.1.10山崎断層帯(大原・土万・安富・主部南東部)

1) 地震諸元

表 4.1.18 地震諸元

3—K	断層名称	断層面 のずれの向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発 生層 の深さ
	山崎断層帯主部 大原断層 土万断層 安富断層	左横ずれ断層	モデ ル化	(強震動評価の断層モデルに基づいてモデル化)				
8909	山崎断層帯	ナ神話の	長期 評価	(強震動評価の断層モデルに基づいてモデル化)				
8203	主部南東部	/工作具 9 JUUT/曹	モデ ル化	$M_{ m w}$ 6.7	30km	18km	90度	2·21km

表 4.1.19 断層モデルのパラメータ

			想定山崎斯層帯地震					
断層パラメータ	設定方法		大原・土万・安富・主部南京部					
		大原・土万斯層	安富断層	楚琶甲·三木新層				
化物学学会	新聞家道古		北韓34* 47'					
\$1791YE 45 44.10	H17年強震動評価時に基づく		東経135°0′					
活断層長さし			80 km					
ビディニックル	ショーニックト 地中の新層モデル原点位置		北緯34°57′26.5″	北緯34°47′0″				
開催モナル原品	(各断層の南端)	東経134°31′57.9″	東経134* 44′ 55.1″	東経135°0′0″				
走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 300° E	N 280° E	N 310° E				
傾斜角 8	ほぼ垂直	90°	90*	90°				
すべり角 γ	左横ずれ断層	0*	0°	0*				
断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びP波速度を参考に設定	2 km	2 km	2 km				
新層モデル長さ L _{model}	HI7年強震動評価時に基づく	30 km	20 km	30 km				
断層モデル幅 IF _{model}	H17年強震動評価時に基づく	18 km	18 km	18 km				
新暦モデル面積 S _{model}	H17年強震動評価時に基づく		1440 km²					
地震モーメント M ₀	$M_0 \!=\! (8^{.4}.24 \times \! 10^{11})^2 \times \! 10^{.7}$		1.15E+20 Nm					
モーメントマグニチュード M_w	$M_{W} = (\log M_0 \circ 9.1) / 1.5$		7.3					
気象庁 マグニチュード M _{IMA}	$M_{\rm BMA}{=}\log M_0{*}10.72/1.17$		8.0					
静的応力除下量 ∆σ	Fujii and Matsu'ura (2000)		3.1 MPa					
密度 ρ	意源における密度		2700.0 kg/m ³					
S波速度 //	震源におけるS波速度		3.4 km/s					
闻 性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$		3.12E+10 N/m ²					
破壞伝播速度 1/,	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976), $\sharp \psi$)		2.4 km/s					
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$		2.6 m					
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$		2.10E+19 N*m/s ²					



図 4.1.10 微視的断層モデル図

4.1.11 中央構造線断層帯(金剛山地東縁-和泉山脈南縁)

1) 地震諸元

表 4.1.20 地震諸元

コード	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8101	中央構造線 断層帯	右横ずれ断層 上下方向の ずれを伴う	長期 評価		(強震動評価	の断層モデルは	ニ基づいてモデル化	;)
	金剛山地東緑一 和泉山脈南縁	金剛東縁:西 側隆起逆断層	モデ ル化	$M_{ m w}$ 7.1	60km 12km	16km 16km	北傾斜43度 西傾斜43度	4•15km

2) 断層モデル

表 4.1.21 断層モデルのパラメータ

		想定中央構造線斷層帯地震			
断層パラメータ	設定方法	金剛山地東緑-	-和泉山脈南縁		
		金剛山地東緑	和泉山脈南縁		
能原業商占		北緯34	° 23′		
107. AND 175 107. AND	長期評価による屈曲点原点 (断層帯東端)	東経135	5° 42′		
活断層長さし		66-74	km		
吃喝 工 = 5 +	他の小師屋エニュロさん発	北緯34°	25' 8"		
問題モデル原意	地中の納着モデル家族位置	東経135°	40' 52"		
走向 0	H16年強霊動評価時に基づく	N 344° E	N 254° E		
傾斜角 δ	金剛山地東緑部:西傾斜15~45° 和泉山派南緑部:北傾斜15~45° (金剛山地東緑部が三角形の断層面となるよう43°と設定)	137"	43*		
すべり角 y	金剛山地東縁部:西側隆起の逆断層 和泉山派南縁部:右模ずれ断層(上下方向のずれを伴う)	90*	180"		
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	4 km			
断層モデル長さL _{model}	H16年強震動評価時に基づく	12 km	60 km		
断層モデル幅 IF _{model}	H16年強震動評価時に基づく	16 km	16 km		
断層モデル面積 St _{model}	$St_{model} = L_{model} \times W_{model}$ (重なる部分を除いた)	95 km²	871 km²		
断層モデル総面積 S _{model}		966	km²		
地震モーメントMo	$M_{\rm D}\!=\!(8\!/\!4.24\times10^{11})^2\times10^{.7}$	5.19E+19	Nm		
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w}\!=\!(\log M_0\text{-}9.1)/1.5$	7	1		
気象庁マグニチュード M _{MA}	$M_{\rm BMA}{=}\log M_{0}{-}10.72/1.17$	7.	7		
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.2	MPa		
密度 ρ	袁源における密度	2700.0	kg/m ³		
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4	km/s		
則性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10	N/m ²		
破壊伝播速度 V,	$V_r = 0.72 \cdot \beta \text{ (Geller(1976)})$	2.4	km/s		
平均すべり量D	$D=M_0/(\muS_{\rm model}$)	1.7	m		
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.98E+19	N·m/s ²		



図 4.1.11 微視的断層モデル図

4.1.12 中央構造線断層帯(紀淡海峡-鳴門海峡)

1) 地震諸元

a-k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8102	中央構造線 断層帯	右横ずれ断層 上下方向の	長期 評価	7.7程度	約43·51km	20•60km	北傾斜 15·45度	下限 15km程度
	紀淡海峡- 鳴門海峡	ずれを伴う	モデ ル化	M _w 7.1	54km	18km	北傾斜 30度	4·15km

表 4.1.22 地震諸元

2) 断層モデル

表 4.1.23	断層モデルのパラメータ
----------	-------------

	断層パラメータ 設定方法	
町層ハラメータ	被走力法	紀淡海峡一鳴門海峡
能同性因素		北緯34°10′
町陪帝原 息	長期評価による	東経134°39′
活断層長さし	(断層長さは、長期評価約43~51kmの 最大値を基準とした)	51 km
気象庁マグニチュード M _{DMA}		7.7
地震モーメント M_0	$\log M_0 {=} 1.17 M_{\rm JMA} {+} 10.72$	5.06E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w} = (\log M_0 \circ 9.1) / 1.5$	7.1
新展エデル 原占	地中の新展工デル原表位置	北緯34°19′3.5″
断層モナル原原	地中の断層モナル原意位直	東経135*11143.7″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	4 km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	54 km
断層モデル幅 FF model	ルールに従い設定	18 km
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	972 km ²
走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 259.1° E
傾斜角 δ	北傾斜15-45°(深さ1km以浅)	30°
すべり角 γ	右横ずれ断層(上下方向のずれを伴う)	180°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.1 MPa
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.7 m
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壞伝播速度 V,	$V_{\tau} = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976) μ)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.96E+19 N·m/s ²



図 4.1.12 微視的断層モデル図

4.1.13 中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部)

※入倉・三宅(2001)によりパラメータを設定するが、すべり量が観測事実に整合するよう M₀を調整する

(ここでは 0.6xMO)。

1) 地震諸元

衣 4.1.24 地辰阳川	表	4.1	. 24	地震諸元
-----------------	---	-----	------	------

コード	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8103	中央構造線 断層帯 讃岐山脈南	右横ずれ断層 上下方向の	長期 評価	8.0程度 それ以上	約130km	20-30km	北傾斜 30-40度	下限 15km程度
	禄一石鎚山 脈北縁東部	ずれを伴う	モデ ル化	$M_{ m w}$ 7.6	132km	24km	北傾斜 35度	4•16km

2) 断層モデル

表 4.1.25 断層モデルのパラメータ

		恕定 中央構造線断層常識岐山脈南線一石鎚山脈北級東部 地震							
断層バラメータ	設定方法		入倉•三宅(200	01) a = 0.6(Fujii and Matsu'ura (20	00) & Sa=0.22S)				
		鳴門·板野·神田 区間	父尾·井口 区間	三野·箸藏·池田 区間		寒川・石槌 区間			
and the set on the				北神34°10′		•			
助權帝原息	長期評価による			東穩134°39′					
活動区間長さん	1			131 km					
単位区間長さん		28 km	22 km	53 km		27 km			
断層幅 #		24.4 km	24.4 km	24.4 km		24.4 km			
断層面積S			3196.4 km²						
	the second states and the se	北緯34°13′8.4″	北緯24" 12" 8.4"						
開層モデル原風	地中の断層モデル原点位置	東程134"38′47.9″	東経134″19′45.4″	東橙134″5′48.1″		東経133 32 50.3"			
断層モデル上端深さ	S液速度を参考に設定	4 km	4 km	4 km	4 km	4 km			
断層モデル長さL _{se_mobil}	ルールに従い役定	30 km	22 km	26 km	26 km	28 km			
断層モデル幅 W _{set_model}	ルールに従い設定	24 km	24 km	24 km	24 km	24 km			
断層モデル菌精 Sing_model	ルールに従い設定	720 km²	528 km²	624 km²	624 km ²	672 km²			
走向 $\theta_{ m ing}$	長期評価の原点を結ぶ方向	N 257° E	N 257° E	N 257°E	N 257° E	N 257° E			
候斜角 d _{ing}	北領部30°-40°	35"	35"	35*	35*	35°			
すべり角 _{どmp}	右横ずれ(上下方向のずれを伴う)	180"	180"	180"	180*	180"			
全断層モデル面積 Smolel				3168 Jun ²		•			
全地震て - メント M _{Osodel}	Mnunuaは、Dが観測事実と整合するように調整			3.41E+20 Nm					
モーメントマグニチュード M _v	$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$			7.6					
気象庁マグニチュード M _{RA}	$M_{\rm RMA} = (\log M_0 - 10.72)/1.17$			8.4					
静的吃力降下量 Arr	Pufi end Matsu'ora (2000)			3.1 MPa					
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$			3.4 m					
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$			3.12E+10 N/m ²					
密度 ク	蕭璋における密度			2700.0 kg/m ²					
S波速度 /	重原におけるS波速度			3.4 km/s					
破壊伝播速度 27,	$V_{g} = 0.72 \cdot \beta \; (\text{Geller}(1976) \pm 9)$			2.4 km/s					
短周期レベル	$A = 4 \pi r \Delta \sigma_b \beta^2$			3.05E+19 N·m/s ²					

E Ban 200m 1 200m

$F_{a} = 52.1 \text{ km}^2$ (GBm z Ram) $e_{a} = 14.1 \text{ My}_{a}$ $D_{a} = 5.1 \text{ m}$	$ \begin{array}{c} \mathcal{J}_{g} = 105 \leq \mathrm{km}^{2} \\ (100m \pm 100m) \\ \sigma_{g} = 14 1 M_{B} \\ \mathcal{D}_{g} = 52 m \end{array} $	$\vec{\sigma}_{\mu} = 116.21 \text{ m}^2$ (if $m = 130\text{ m}$) $\vec{\sigma}_{\mu} = 141.02\text{ m}$ $D_{\mu} = 6.2 \text{ m}$	
☆ ケース1	$\sigma_b = 19 \text{ MP}_0$ $D_\mu = 2.6 \text{ m}$	d ₁ = 2.3 MPa D ₂ = 2.3 m	_
	30km	22km	_





図 4.1.13 微視的断層モデル図

※まずはセグメントごとに M₀を算出し、それらを合算した M₀から各パラメータを設定する。

1) 地震諸元

表 4.1.26 地震諸元

コード	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8103	中央構造線 断層帯 蹭岐山脈南	右横ずれ断層 上下方向の	長期 評価	8.0程度 それ以上	約130km	20·30km	北傾斜 30·40度	下限 15km程度
	禄一石鎚山 脈北縁東部	ずれを伴う	モデ ル化	$M_{ m w}$ 7.6	132km	24km	北傾斜 35度	4•16km

2) 断層モデル

表 4.1.27 断層モデルのパラメータ

		想定 中央構造線師層帶旗軟山脈南線一石錢山脈北線東部 地震					
断層パラメータ	役定方法		(Fujii and Matsu'ura (2000) & Sa=0.22	5)		
		鳴門·板野·祥田-	-父尾・井口 区間	三野・窖蔵・池田一寒川・石鎚 区間			
14C 187 197 19				北總34°10′			
HE PE THE REAL PR	長期評価による			東経134'39'			
活動区間長さん			131	km			
活動区間長さん		51	km		80 km		
活動区間ごとの地震モーメントが0		5.06E+19	Nm		1.22E+20 Nm		
金地震モーメントが。	2活動区間の和		5.06E+19	Nm			
気象庁マグニチュードメ _{ルは}	M _{JMA} = (log M ₀ - 10.72)/1.17			8.4			
モーメントマグニチュードM _W	$M_{y} = (\log M_0 \cdot 9.1) / 1.5$			7.1			
No. 1 and		北綱34" 13′ 0.9″ 北綱34″ 9′ 28.9″		北綱34°6′48.1″	北綱34、6、48.1~		
師擅モデル原原	地中の断層モデル原意位直	東経134°38′9.8″ 東経134°19′45.4″		東縫134°5′48.1″	東縫133°32′50.3″		
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	4 km	4 km	4 km	4 km	4 km	
断層モデル長さLmodel	ルールに従い設定	32 km	22 km	26 km	26 km	30 km	
断層モデル幅 W model	ルールに従い設定	18 km	18 km	18 km	18 km	18 km	
断層モデル面積ぷ _{model}	ルールに従い設定	576 km ²	396 km ²	468 km ²	468 km ²	540 km ²	
走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 257' E	N 257" E	N 257' E	N 257' E	N 257" E	
傾斜角 δ	北観斜30" — 40"	35°	35°	35°	35°	35°	
すべり角ッ	右横ずれ(上下方向のずれを伴う)	180"	180"	180"	180"	180"	
静的応力降下量 ∧σ	Pujii & Matsu'ura (2000)	3.1	MPa	3.1 MPa			
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	1.7	m		2.6 m		
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10	N/m ²		3.12E+10 N/b-2		
密度の	震源における密度	2700.0	kg/m ³	2706.0 kg/m ⁵			
S波速度 <i>β</i>	震源におけるS波速度	3.4	km/s	3.4 km/s			
磁速伝播速度 Vg	$V_R = 0.72 \cdot \beta \text{ (Geller(1976),} 4)$	2.4	km/s		2.4 km/s		
短周期レベル	$A = 4 \pi r \Delta \sigma_a \beta^2$	1.69E+19	N°m/s ²	2.08E+19 N·m/s ²			





4.1.14 上町断層帯

(直線ケース)

1) 地震諸元

3—k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8001	上町断層帯	東側隆起の 逆断扇	長期 評価	7.5程度	約42km	15•20km	東傾斜 65·70度	下限 15km程度
		ACTIVITY I	モデ ル化	<i>M</i> _w 7.0	46km	16km	東傾斜 70度	2·15km

表 4.1.28 地震諸元

表 4.1.29	断層モデルのパラメ-	-タ
----------	------------	----

に思いニュータ	10	想定上町断層帯地震	
町官ハラメーヌ	叙足刀法		
能爆炸团力		北緯34°26′	
断指带原品	E 40.57 (T (-). T	東経135°25′	
活断層長さし	快利評価による	42 km	
気象庁マグニチュード M _{DMA}		7.5	
地震モーメントM。	$\log M_0 \!=\! 1.17M_{\rm 2MA} \!+ 10.72$	3.47E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w} = (\log M_{\odot} \star 9.1) / 1.5$	7.0	
新聞を考えているよ	地力の影響エジェアなが考	北緯34°24′50.6″	
断層モデル原意	地中の断層モナル原息位置	東経135°25′15″	
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	2 km	
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	46 km	
断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	16 km	
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	736 km²	
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 8.2° E	
傾斜角 δ	東傾斜65-70°(地下1km以浅)	70°	
すべり角 γ	東側隆起の逆断層	90°	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.2 MPa	
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.5 m	
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
破壊伝播速度 17,	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976) $\mathcal{L}\mathcal{Y}$)	2.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \bullet 10^{17} \bullet M_0^{-1/3}$	1.73E+19 N·m/s ²	



図 4.1.15 微視的断層モデル図

(屈曲ケース)

1) 地震諸元

ц Ч	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
8001	上町断層帯	帯 東側隆起の 満断展	長期 評価	7.5程度	約42km	15•20km	東傾斜 65•70度	下限 15km程度
		2270B	モデ ル化	$M_{ m w}$ 7.0	46km	16km	東傾斜 70度	2-15km

表 4.1.30 地震諸元

2) 断層モデル

表 4.1.31 断層モデルのパラメータ

145回 パニィーク	€5.cp.+t.;+	想定上町断層帯地震			
町唐ハラメータ	設定方法	北側	南側		
ur: 199 444-737 Ja		北緯34° 39′			
町宿舎原泉		東経13	5° 31′		
活断層長さし	長朝評価による地表トレース上で設定した屈囲点	42	km		
気象庁マグニチュード M _{DMA}		7	.5		
地震モーメント M ₀	$\log M_0 \!=\! 1.17 M_{\rm BMA} \!+ 10.72$	3.47E+19	Nm		
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w} = (\log M_{\odot} - 9.1) / 1.5$	7	.0		
111日 11日 11日11日11日11日11日11日11日11日11日11日11日11日	はっつが反てゴルロウンは美	北緯34*:	38′ 49.4″		
町暦モナル原原	地中の断遭モデル出曲点位直	東経135*31′22.2″			
断層モデル上靖深さ	S波速度を参考に設定	2 km	2 km		
断層モデル長さLmodel	ルールに従い設定	20 km	26 km		
断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	16 km	16 km		
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	320 km ²	416 km ²		
走向 θ	長期評価の原点と屈曲点を結ぶ方向	N 350.8° E	N 201.8° E		
傾斜角 δ	東傾斜65-70°(地下1km以浅)	70°	110°		
すべり角 >	東側隆起の逆断層	90°	90°		
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.2	MPa		
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.5	m		
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10	N/m ²		
密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³			
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s			
破壊伝播速度 17,	$V_{\tau} = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976) μy)	2.4 km/s			
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_{\odot}^{-1/3}$	1.73E+19	N·m/s ²		



図 4.1.16 微視的断層モデル図

4.1.15 生駒断層帯

1) 地震諸元

а—қ	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7701	7701 生陶断層基	東側隆起の	長期 評価	7.0·7.5 程度	約38km	不明	東傾斜 30・40度	下限 15km程度
		逆断着	モデ ル化	$M_{ m w}6.9$	40km	18km	東傾斜 35度	$2 \cdot 15 \text{km}$

表 4.1.32 地震諸元

2) 断層モデル

断局バラメータ	設定方法	想定生駒断層帯地震
Diar y	EXC 77 MA	
斯尼普图古		北綱34°32′
IST 178 ALL VAL		東経135°37′
活断層長さL	「技別計画による	38 km
気象庁マグニチュード M _{DMA}		7.5
地震モーメント M ₀	$\log M_0 \!=\! 1.17M_{\rm TMA} \!+\! 10.72$	2.85E+19 Nm
モーメントマグニチュード M _w	$M_{\rm w} \!=\! \left(\log M_0 \circ 9.1 \right) / 1.5$	6.9
成果をごうます。		北緯34°31′12.7″
断層モテル原点	地中の断層モテル原意位直	東経135°38′44.2″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	2 km
断層モデル長さLnodel	ルールに従い設定	40 km
断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	18 km
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	720 km²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 9.4° E
傾料角 δ	東傾斜(地下400m以浅30-40°程度)	35*
すべり角 y	東側隆起の逆断層	90°
静的応力降下量 ∆σ	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.6 MPa
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.3 m
到性率 µ	$\mu = \rho \ \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km∕s
破壞伝播速度 V _r	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976) μψ)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.62E+19 N·m/s ²

表 4.1.33 断層モデルのパラメータ



図 4.1.17 微視的断層モデル図

4.1.16 三峠-京都西山断層帯(京都西山断層帯)

1) 地震諸元

3-F	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7803	京都西山	[北西半部]北東 側隆起の逆断層 成分を伴う左横	長期 評価	7.5程度	約42km	不明	一部北東傾斜 高角度 /西傾斜	下限 約15km
	町層帯	すれ町増/1第 東半部]西側隆 起の逆断層	モデ ル化	$M_{ m w}$ 7.0	30km 18km	18km 18km	90度 西傾斜45度	1•19km

表 4.1.34 地震諸元

2) 断層モデル

表 4.1.35 断層モデルのパラメータ

		想定三峰·京都西山断層帯地震			
断層バラメータ	設定方法	京都西に	山新層帯		
		北西半部	南東半部		
10C 100 30 100 Ju	E 98/2/21	北緯35°2′	北緯34°53′		
BUT DES VER DES DES	大学は十国によう	東経135'40'	東程135'39'		
活断層長さし	長期評価による活動層長さは約42kmだが、	48	km		
気象庁マグニチュード M _{JMA}	用に長さとManaを設定	7	.6		
地震モーメント M ₀	$\log M_0 = 1.17 M_{BMA} + 10.72$	4.50E+19	Nm		
モーメントマグニチュード $M_{\rm w}$	$M_{\rm w}$ = (log M_0 - 9.1) / 1.5	7	.0		
Real of the	はわれば展示ディのおける	北緯35°1′59.9″	北緯35°2′1.1″		
町唐モナル原原	地中の財産モナル原以位置	東経135°40′0.1″	東経135°39′20.5″		
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km	1 km		
断層モデル長さL _{model}	断層形状に従い設定	30 km	18 km		
断層モデル幅 II' _{model}	ルールに従い設定	18 km	18 km		
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	540 km ²	324 km ²		
走向 //	長期評価の原点と屈曲点を結ぶ方向	N 298.4° E	N 182" E		
傾斜角 δ	(北西半部)高角度、一部北東傾斜(400m以浅) (南東半部)西傾斜(200m緯線)	90"	45'		
すべり角ッ	(北西半部)北東側陸起の泛断層成分を伴う左根ずれ (南東半部)西側陸起の逆断層	0*	90"		
静的応力降下量 ∆σ	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	4.3 MPa			
平均すべり量D	$D=M_0/\left(\;\mu\;S_{\rm model}\;\right)$	1.7	m		
剛性率 μ	剛性率 μ $\mu = \rho \beta^2$		N/m ²		
密度 //	密度 p 震源における密度		2700.0 kg/m ²		
S波速度 //	震源におけるS波速度	3.4 km/s			
破壞伝播速度 17,	$V_z = 0.72 \cdot \beta \text{ (Geller(1976)&9)}$	2.4	km/s		
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.88E+19 N·m/s ²			



図 4.1.18 微視的断層モデル図

4.1.17 三峠-京都西山断層帯(上林川断層帯)

1) 地震諸元

3—k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7801 上林川鹿區	右横ずれ断層 (北西側隆起	長期評価	7.2程度	約26km	不明	高角度	下限 約15km	
		成分を伴う)	モデ ル化	$M_{ m w}6.7$	30 km	16km	90度	1•15km

表 4.1.36 地震諸元

新聞パニューク	孙安士注	想定三峠·京都西山断層帯地震
町層ハフメージ	設定方法	上林川断層
长园学商业		北緯35°25′
断眉帝原息		東経135°30′
活断層長さし	★ 粉評価による	26 km
気象庁マグニチュード M _{DMA}		7.2
地震モーメントMo	$\log M_0 = 1.17M_{\rm TMA} + 10.72$	1.36E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w}$ = (log M_0 = 9.1) / 1.5	6.7
彩展テジャでよ	絵内の影響系デル原本体系	北緯35°25′36.7″
町層モナル原息	地中の断層モナル原点位直	東経135°31′6.5″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	30 km
断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	16 km
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	480 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 236.9° E
傾斜角 δ	高角度(地表付近)	90°
すべり角 y	右横ずれ断層(北西側隆起の成分を伴う)	180°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.1 MPa
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{model})$	0.9 m
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壞伝播速度 V,	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976) μ)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{-1/3}$	1.27E+19 N·m/s ²
		•

表 4.1.37 断層モデルのパラメータ





4.1.18 三峠-京都西山断層帯(三峠断層帯)

1) 地震諸元

	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 便斜角	地震発生層 の深さ
7802	三帳断屬	左横ずれ断層 (北東側隆起	長期 評価	7.2程度	約26km	不明	高角度	下限 約15km
		成分を伴う)	モデ ル化	$M_{ m w}6.7$	30 km	16km	90度	1·15km

表 4.1.38 地震諸元

15 10 J = J - M		想定三峰·京都西山斯層帯地震
町層ハラメータ	設正方法	三峠断層
140° 800 100 - Au		北 純 35°13′
断層使原息		東経135~28′
活断層長さし	長期評価による	26 km
気象庁マグニチュードM _{BMA}		7.2
地震モーメントM。	$\log M_{\rm 0}\!=\!1.17M_{\rm JMA}\!+10.72$	1.36E+19 Nm
モーメントマグニチュードM _w	$M_{\rm w} = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.7
ar to a mini to the		北緯35°12′47.6″
断増モナル原点	地中の断層モナル原息位直	東程135°29′18.6″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	30 km
断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	16 km
断層モデル面積 Smodel	ルールに従い設定	480 km ²
走向 <i>0</i>	長期評価の原点を結ぶ方向	N 282.1° E
傾斜角 δ	高角度(地表付近)	90*
すべり角 y	左横ずれ断層(北東側隆起の成分を伴う)	0°
静的応 力 降下量 Δσ	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.1 MPa
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	0.9 m
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
破壞伝播速度 V,	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.27E+19 N-m/s ²

表 4.1.39 断層モデルのパラメータ



図 4.1.20 微視的断層モデル図

4.1.19 大阪湾断層帯

1) 地震諸元

ц Ч – К	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
9801 大阪湾	阪湾北西側隆起の	長期 評価	7.5程度	約39km	約15· 20km	西傾斜 60·80度	下限 15km程度	
	町層帯	逆断層	モデ ル化	$M_{ m w}$ 6.9	44km	12km	西傾斜 70度	4-15km

表 4.1.40 地震諸元

2) 断層モデル

_

	断層パラメータ	設定方法	想定大阪湾断層帯地震
	断層帯原点		北牌34°41′
	沃斯爾長さ/	長期評価による	果粒135 14
	気象庁マグニチュードがった		75
	地震モーメントが。	$\log M_0 = 1.17 M_{BM} + 10.72$	3.00E+19.Nm
	モーメントマグニチュードが一	$M = (\log M_{\odot}, 91)/15$	89
		10 H (0.8 10 0 - 5-1) - 1 - 5	
	断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	東経135°13′8.5″
	断層モデル上端深さ	微小地震の発生及びS波速度を参考に設定	4 km
	断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	44 km
	断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	12 km
	断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	528 km ²
	走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 205.6° E
	傾斜角 δ	西傾斜60-80°(地下3km以浅)	70°
	すべり角 y	北西側陸起の逆断層	90"
	静的応力降下 量 ∆σ	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	6.0 MPa
	平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.8 m
	剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
	密度 ρ	震源における密度	2700.0 kg/m ³
	S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s
	破壊伝播速度 17,	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976), 59)	2.4 km/s
	短周期レベル	$A = 2.46 \bullet 10^{17} \bullet M_0^{-1/3}$	1.65E+19 N·m/s ²
NE		39km	5.0 SW GL 70°
	$S_{g} = 82.9 \text{ km}^{2}$ (10 km x 8 km) $\sigma_{g} = 12.8 \text{ Mp}$ $D_{g} = 2.8 \text{ m}$ $D_{g} = 7.8 \text{ m}$ $D_{g} = 0.8 \text{ m}$	$S_{\sigma} = 165.9 \text{ km}^{2}$ (20 km x 8 km) $\sigma_{\sigma} = 123 \text{ MPa}$ $\sigma_{\sigma} = 123 \text{ MPa}$ $D_{\sigma} = 4.0 \text{ m}$ $D_{\sigma} = 4.0 \text{ m}$ T^{2}	4.06m 4.26km (第17日前) 1.2km 11.28km 日本の社会社) 1.2km 1.2km
NE		39km	5.0 SW gL
	$S_{g} = 165.9 \text{ km}^{\circ}$ (20 km x 8 km) $\sigma_{g} = 12.8 \text{ Mp}^{\circ}$ $D_{g} = 4.0 \text{ m}$ $\Lambda_{g} = 4.0 \text{ m}$	$S_{g} = 82.9 \text{ km}^{2}$ (10 km \otimes km) $\sigma_{g} = 12.8 \text{ MP}^{2}$ $D_{g} = 2.8 \text{ m}$ $D_{g} = 2.8 \text{ m}$	4.26km (第26前 上が注例) 12km (第26前 上が注例)

表 4.1.41 断層モデルのパラメータ

図 4.1.21 微視的断層モデル図

4

 $\sigma_h = 0.1 \text{ MP}$ $D_h = 0.2 \text{ m}$

44km

オーネ3

4.1.20 山田断層帯(主部)

1) 地震諸元

表 4.1.42 地震諸元

3-4	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7401	山田断層帯	北西側隆起の成分を伴	長期 評価	7.4程度	約33km	不明	北西傾斜	下限 約10km
	王部	う石積すれ 断層	モデ ル化	$M_{ m w}6.8$	38km	16km	90度	1-15km

2) 断層モデル

ドロパニュータ	11.0+1	想定山田断層帯地震
町層ハフメーダ	設定力法	主部
此同些历史		北緯35°29′
断層帶成息	# #19 茶/JE = 1- Z	東経134°57′
活断層長さし	文別計画による	33 km
気象庁マグニチュードM _{3MA}		7.4
地震モーメント M_0	$\log {M_0}\!=\!1.17M_{\rm BMA}\!+10.72$	2.17E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w}\!=\!(\log M_0\!-\!9.1)/1.5$	6.8
能優도를 비중하	地中の新国王三川西古侍妻	北緯35°28′8.4″
断層モナル原息	地中の断層モナル麻息位置	東経134°55′42.2″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	38 km
断層モデル幅 II' model	ルールに従い設定	16 km
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	608 km ²
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N 51.6° E
傾斜角 δ	北西傾斜(地表付近)	90°
すべり角 y	北西側隆起の成分を伴う右横ずれ断層	180°
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.5 MPa
平均すべり量D	$D=M_0/(\muS_{\rm model})$	1.1 m
剛性率 µ	$\mu = \rho \ \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ²
S波速度 β	S波速度 β 震源におけるS波速度	
破壞伝播速度 V,	$V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976) μ)	2.4 km/s
短周期レベル	$\mathcal{A} = 2.46 \bullet 10^{17} \bullet M_0^{-1/3}$	1.48E+19 N·m/s ²

表 4.1.43 断層モデルのパラメータ



図 4.1.22 微視的断層モデル図

4.1.21 山田断層帯(郷村断層帯)

1) 地震諸元

3 - ,k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生 層 の深さ
7402	郷村断層帯	南西側隆起の成分を伴	長期 評価	7.4程度 以上	約34 km 以上	15km程度	南西傾斜 高角度	下限 約15km
		う左積すれ 断層	モデ ル化	$M_{ m w}$ 6.8	38km	16km	90度	1•16km

表 4.1.44 地震諸元

ビロジニィーク	10.m+2+	想定山田断層帯地震		
町層ハフメーダ	設定方法	鄉村斷層帯		
		北緯35°35′		
断層帶原息		東経135°5′		
活断層長さし	長期評価による	34 km		
気象庁マグニチュードM ₂₀₀₄	1	7.4		
地震モーメントM。	$\log M_0 = 1.17 M_{BMA} + 10.72$	2.30E+19 Nm		
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w} = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.8		
		北綱35°34′2.1″		
断層モテル原点	地中の断層モデル原点位置	東経135°5′37.7″		
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km		
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	38 km		
断層モデル幅 IV _{model}	ルールに従い設定	16 km		
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	608 km ²		
走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 334° E		
傾 斜角 δ	高角度	90°		
すべり角 γ	南西側隆起の成分を伴う左横ずれ断層	0*		
静的応力降下量 $\Delta\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.7 MPa		
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.2 m		
剛性率 µ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²		
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ³		
S波速度 β	3.4 km/s			
破壞伝播速度 V。	破壊伝播速度 V_r $V_r = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)			
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.51E+19 N·m/s ²		

表 4.1.45 断層モデルのパラメータ



図 4.1.23 微視的断層モデル図

4.1.22 花折断層帯中南部

1) 地震諸元

表 4.1.46 地震諸元

3—k	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生 層 の深さ
7303	花折 断層帯	中部: 右横ずれ断層 南部: 東側路邦の洋断層	長期 評価	7.3程度	中部約20km 南部約15km	中部15・ 20km南 部20・ 45km	中:ほぼ垂直 南:50,25・55度	下限 15·20km 程度
	中南部	東側座起の逆断着 一部西側隆起	モデ ル化	$M_{ m w}$ 6.9	22km 16km	18km 18km	90度 東傾斜50度	1•20km

2) 断層モデル

表 4.1.47 断層モデルのパラメータ

		想定三方·花折断磨带地震			
断層パラメータ	設定方法	花折断層	带中南部		
		中部	南部		
医黑紫斑素		北緯35	° 11'		
ina da dinata di	三 1987年1月 (- ► Z	東経13	5° 52′		
活断層長さし	2X MUT IIII ~ ~ ~	35	km		
気象庁マグニチュード M _{BMA}		7	.4		
地震モーメントM。	$\log M_0 \!=\! 1.17 \; M_{\rm JMA} \!+ 10.72$	2.43E+19	Nm		
モーメントマグニチュード $M_{\rm w}$	$M_w \!=\! (\log M_0 \text{ - } 9.1) / 1.5$	6	.9		
新聞エデル語志	使中の販売モデル原本位置	北緯35°10′58.8″	北緯34°53′23.6″		
BIR CT TORS	8年の前着モデル承認[[20]	東経135°52′1.2″	東経135 49′30.3″		
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km	1 km		
断層モデル長さ L _{model}	ルールに従い設定	22 km	16 km		
断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	18 km	18 km		
断層モデル面積 S _{mobil}	ルールに従い設定	396 km ²	288 km ²		
定向 //	長期評価の原点を結ぶ方向	N 202.3" E	N 354.8° E		
燻料角 ゟ	中部:ほぼ垂直 南部:東傾斜50°程度(桃山)、25~55°程度(黄檗)	90*	50*		
すべり角ッ	中部:右横ずれ断層(東側隆起の上下成分を伴う) 南部:東側隆起の逆断層(一部西側隆起の逆断層)	180"	90°		
静的応力降下量 Δσ	$\Delta\sigma=7/16\cdotM_0/R^3$	3.3	MPa		
平均すべり量D	$D=M_0/\left(\muS_{\rm model}\right)$	1.1 m			
開性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²			
密度 //	震源における密度	2700.0 kg/m ³			
S波速度 β 震源におけるS波速度		3.4 km/s			
破壞伝播速度 17,	$V_{\rm r} = 0.72 \bullet \beta \ ({\rm Geller}(1976) \& \mathfrak{Y})$	2.4 km/s			
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.54E+19	N°m/s²		



図 4.1.24 微視的断層モデル図

4.1.23 木津川断層帯

1) 地震諸元

コード	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生層 の深さ
7201	木津川	北側隆起の 逆断層で	長期価	7.3程度	約31km	不明	北倾斜 40·60度	下限 約15km
	RL图带	石積ずれ成 分を伴う	モデ ル化	M_w 6.8	32km	18km	北傾斜 50度	1.14km

表 4.1.48 地震諸元

表 4.1.49 断層モデルのパラメータ

乾房パニィーク	动会士社	想定木津川断層帯地震
町宿ハファーダ	設た力法	
		北緯34°51′
断層市原品		東経136°16′
活断層長さL	反射計画による	31 km
気象庁マグニチュード M _{IMA}		7.3
地震モーメントM0	$\log M_0 = 1.17 M_{\rm JMA} + 10.72$	1.92E+19 Nm
モーメントマグニチュード M_{w}	$M_{\rm w} = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.8
ᄣᇛᆂᆗᆘᅜᅸ	地市の艇展えざい反よた業	北緯34°51′25.6″
師唐モナル原品	地中の断層モナル原点位直	東経136°15′48.7″
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	32 km
断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	18 km
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	576 km²
走向 0	長期評価の原点を結ぶ方向	N 250°E
傾斜角 δ	40-60°北傾斜(地表付近)	50°
すべり角 y	北側隆起の逆断層で右横ずれ成分を伴う	90°
静的応力降下量 A σ	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.4 MPa
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\text{model}})$	1.1 m
剛 性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ³
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km∕s
破壊伝播速度 V _r	V _r =0.72・β (Geller(1976)より)	2.4 km/s
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.42E+19 N•m/s ²



図 4.1.25 微視的断層モデル図

4.1.24 奈良盆地東縁断層帯

1) 地震諸元

表 4.1.50 地震諸元

	2 - K	断層名称	断層面 のずれ の向き		$M_{ m J}$	断層 長さ	断層面 の幅	断層面の 傾斜角	地震発生 層 の深さ
	7501	奈良盆地 東縁断層帯	良盆地 東側隆起の 2015層帯 逆断層 ・	長期 評価	7.4程度	約35km	不明	東傾斜 50・60度	下限 15km程 度
				モデ ル化	M_w 6.9	36km	18km	束倾斜 55度	1.15km

表 4.1.51 断層モデルのパラメータ

展 パニリーケ	乳 中士注	想定奈良盆地断層帯地震	
町宿ハフメータ	〕 〕 〕 〕		
此屋世历上		北 緯34°31′	
町宿守原品		東経135°51′	
活断層長さL	長期詳価による	35 km	
気象 庁マグニチュード M _{JMA}		7.4	
地震モーメント M0	$\log M_0 = 1.17 M_{\rm JMA} + 10.72$	2.43E+19 Nm	
モーメントマグニチュード M_w	$M_{\rm w} = (\log M_0 \cdot 9.1) / 1.5$	6.9	
ᄣᇛᅮᄚᆈᄧᇉ	ᄴᅭᅭᄴᇏᆓᆍᆗᆘᅙᅸᄻᆓ	北緯34°30′43.4″	
町暦モナル原品	地中の町暦モナル原点位直 	東経135°51′29.1″	
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1 km	
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	36 km	
断層モデル幅 W _{model}	ルールに従い設定	18 km	
断層モデル面積 S _{model}	ルールに従い設定	648 km²	
走向 ∂	長期評価の原点を結ぶ方向	N 355° E	
傾斜角 <i>ŏ</i>	50-60°東傾斜(地下600m以浅)	55°	
すべり角 y	東側隆起の逆断層	90°	
静的応力降下量 $\Lambda\sigma$	$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot M_0 / R^3$	3.6 MPa	
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu S_{\rm model})$	1.2 m	
剛 性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10 N/m ²	
密度 p	震源における密度	2700.0 kg/m ³	
S波速度 β	震源におけるS波速度	3.4 km/s	
破壞伝播速度 V _r	$V_{\rm r} = 0.72 \cdot \beta$ (Geller(1976)より)	2.4 km/s	
短周期レベル	$A = 2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$	1.54E+19 N·m/s ²	



図 4.1.26 微視的断層モデル図

4.1.25 御所谷断層帯

表	4. 1	. 52	断層Ŧ	゠ディ	レのノ	゚゚ヺ	メータ
---	------	------	-----	-----	-----	-----	-----

断層パラメータ	設定方法	御所谷断層帯
断層帯原点		北緯 35°04′23″
活断層長さL	大当寺言でである	
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯 35°04′23″ 車経 135°16′01″
 走向 <i>θ</i>	長期評価の原点を結ぶ方向	<u>東</u> 和135 16 01 N239.7°E
傾斜角 δ		90°
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	3.0km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	32.0km
断層モデル幅 <i>W</i> _{model}	ルールに従い設定	18.0km
断層モデル面積S _{model}	ルールに従い設定	572.6km2
地震モーメントM。	<i>M</i> o=1.17M _{JMA} +10.72.	1.82E+19Nm
モーメントマグニチュードMw	$M_{\rm W} = (\log M_{\rm O} - 9.1) / 1.5$	6.8
気象庁マグニチュード <i>M</i> JMA	$M_{\rm JMA} = \log M \circ - 10.72 / 1.17$	7.3
静的応用力降下量 $\Delta \sigma$	$\Delta \sigma = 7/16 \times M_0/R^3$	15.6Mpa
·····································	震源における密度	2700kg/m3
S波速度β	震源におけるS波速度	3.4km/s
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10N/m2
破壊伝播速度 Vr	Vr=0.72 × β (Geller (1976より))	2.4km/s
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu_{\text{model}}^{\text{S}})$	1.0cm
短周期レベル	$A = 2.46 \times 10^{17} \times M_0^{1/3}$	1.40E+19



図 4.1.27 微視的断層モデル図

4.1.26 養父断層帯

断層パラメータ	設定方法	養父断層帯
断層帯原点	長期評価による	北緯 35°20′53″ 東経134°54′29″
活断層長さL		21.0km
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯 35°20′53″ 東経 134°54′29″
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N281.5°E
傾斜角δ		90°
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	3.0km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	22.0km
断層モデル幅 <i>W</i> _{model}	ルールに従い設定	18.0km
断層モデル面積 <i>S_{model}</i>	ルールに従い設定	382.3km2
地震モーメントM。	<i>М</i> о=1.17М _{ЈМА} +10.72.	8.13E+18Nm
モーメントマグニチュードMw	<i>M</i> w = (log <i>M</i> o - 9.1) / 1.5	6.5
気象庁マグニチュード <i>M</i> 」MA	M _{JMA} = log Mo - 10.72 / 1.17	7.0
静的応用力降下量 $\Delta \sigma$	$\Delta \sigma = 7/16 \times M_0/R^3$	16.7Mpa
密度 <i>ρ</i>	震源における密度	2700kg/m3
S波速度 <i>β</i>	震源におけるS波速度	3.4km/s
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10N/m2
破壊伝播速度 Vr	Vr=0.72×β (Geller (1976より))	2.4km/s
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu^{S_{model}})$	0.7cm
短周期レベル	$A = 2.46 \times 10^{17} \times M_0^{1/3}$	1.07E+19

表 4.1.53 断層モデルのパラメータ



図 4.1.28 微視的断層モデル図

4.1.27 鳥取地震

1) 断層モデル

表 4.1.54 断層モデルのパラメータ

断層パラメータ	設定方法	鳥取地震
断層帯原点	長期評価による	北緯35°26'35.3″ 東経133°59'50.3″
		33.0km
断層モデル原点	地中の断層モデル原点位置	北緯35°26'35.3″ 東経133°59'50.3″
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N80.0°E
傾斜角 δ		90°
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	1.0km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	34.0km
断層モデル幅 <i>W_{model}</i>	ルールに従い設定	16.0km
断層モデル面積 <i>S_{model}</i>	ルールに従い設定	500.5km2
地震モーメントMo	<i>M</i> o=1.17M _{JMA} +10.72.	1.39E+19Nm
モーメントマグニチュードMw	$M_{\rm W} = (\log M_{\rm O} - 9.1) / 1.5$	6.7
気象庁マグニチュード <i>M</i> JMA	M _{JMA} = log Mo - 10.72 / 1.17	7.2
静的応用力降下量 $\Delta \sigma$	$\Delta \sigma = 7/16 \times M_0/R^3$	16.0Mpa
密度 ρ	震源における密度	2700kg/m3
S波速度 <i>β</i>	震源におけるS波速度	3.4km/s
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.12E+10N/m2
破壊伝播速度 Vr	Vr=0.72 × β (Geller (1976より))	2.4km/s
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu^{\text{S}}_{\text{model}})$	0.9cm
短周期レベル	$A = 2.46 \times 10^{17} \times M_0^{1/3}$	1.28E+19



図 4.1.29 微視的断層モデル図

4.1.28 M6.9 直下地震

1) 断層モデル

表 4.1.55 断層モデルのパラメータ

断層パラメータ	設定方法	M6.9
新層帯原占		_
	長期評価による	—
活断層長さL		17.0km
新岡エデル. 百占	地中の断層エデル原占位署	北緯 35°20′53″
岡宿モアル原点	地中の町層モナル原点位直	東経 134°54′29″
走向 θ	長期評価の原点を結ぶ方向	N281.5°E
傾斜角δ		90°
断層モデル上端深さ	S波速度を参考に設定	4.0km
断層モデル長さL _{model}	ルールに従い設定	17.0km
断層モデル幅 <i>W</i> _{model}	ルールに従い設定	11.0km
断層モデル面積 <i>S</i> _{model}	中央防災会議による	195.0km2
地震モーメントM。	中央防災会議による	1.00E+19Nm
モーメントマグニチュードMw	$M_{\rm W} = (\log M_{\rm O} - 9.1) / 1.5$	6.5
気象庁マグニチュード <i>M</i> JMA	M _{JMA} = log Mo - 10.72 / 1.17	6.9
静的応用力降下量 $\Delta \sigma$	$\Delta \sigma = 7/16 \times M_0/R^3$	12.0Mpa
密度 ρ	震源における密度	2800kg/m3
S波速度β	震源におけるS波速度	3.5km/s
剛性率 μ	$\mu = \rho \beta^2$	3.43E+10N/m2
破壊伝播速度 Vr	Vr=0.72×β (Geller (1976より))	2.5km/s
平均すべり量D	$D = M_0 / (\mu_{\text{model}}^{\text{S}})$	1.5cm
短周期レベル	$A = 2.46 \times 10^{17} \times M_0^{1/3}$	_



図 4.1.30 微視的断層モデル図

4.2 兵庫県に被害を及ぼした歴史地震

有史以来、兵庫県内で震度5弱以上の揺れをもたらした歴史地震は、33地震が記録されている。

海溝型地震を除いて、複数の死者が記録された地震は、下記の3地震。

(1)868年の播磨の国地震

山崎断層北西部の安富断層、暮坂峠断層が動き、M7.1 程度と推定されている。マグニ チュードが 7 以上であること(さらに、すでに 1,100 年以上が経過し、活動周期が 1,800 年から 2,300 年とされており、30 年以内の発生確率 0.09~1%と比較的高いこと)から、 これらの断層は、山崎断層帯の一部として今回の想定対象としている。

(2)1925年北但馬地震

円山川河口部の海底が震源とされる M6.8 の地震で、円山川流域で死者 428 人(県内 421 人)の人的被害を出し、円山川河口付近(現豊岡市の大字田結(たい))の地表の一部にず れを生じたが、この付近に活断層は知られていない(神戸海洋気象台ホームページ:兵庫 県の活断層)。

地震規模が M7 未満であること(さらに、発生後 100 年も経過しておらず発生確率が極めて低いこと)から、断層の特定作業等は行わず、M6.9 の伏在断層による想定でカバーすることとしている。

(3)1927年北丹後地震(山田断層帯の一部が兵庫県内)

北丹後地震(M7.3)は、山田断層帯(京都府宮津市北部〜兵庫県出石郡但東町の「山田断 層帯主部」と京都府丹後半島沖合〜京丹後市付近に至る「郷村断層帯」から構成)の郷村断層 帯を震源とする地震で、死者 2,925 人(県内 6 人)を出した地震である。(経過年数は短く発 生確率は低いが) M7 を超えており県内最大震度が 5 強となることから、今回の想定地震 断層としている。

番	号	発 生 年 月 日	(推定)規模(M)	
]	1	599. 5.28 (推古 7.4.27)	7.0	
، د	2	701. 5.12 (大 宝 1. 3.26)	7.0	
ę	3	745. 6.15 (天平 17. 4.27)	7.9	
2	4	827. 8.11 (天長4.7.12)	6.5~7.0	
05	5	868.8.3 (貞 観 10.7.8)	7.0以上	播磨国地震
06	6	887. 8.26 (仁和 3. 7.30)	8.0~8.5	
7	7	938. 5.22 (承平8 (天慶1). 4.15)	7.0	
5	8	1096.12.17 (嘉保3 (永長1).11.24)	8.0~8.5	
Ç	9	1361. 8. 3 (正平 16. 6.24)	$8_{1/4} \sim 8.5$	
1	.0	1449. 5.13(文安6(宝徳1) . 4.12)	$5_{3/4}$ ~6.5	
1	.1	1498. 9.20 (明 応 7. 8.25)	8.2~8.4	
1	.2	1510. 9.21 (永 正 7.8.8)	6.5~7.0	
1	.3	1579. 2.25 (天 正 7.1.20)	6. $0 \pm \frac{1}{4}$	
1	.4	1596.9.5(文録5(慶長1).7.13)	$7_{1/2\pm 1/4}$	
1	.5	1662. 6.16 (寛文 2.5.1)	$7_{1/4}$ ~7.6	
1	.6	1707.10.28 (宝 永 4.10.4)	8.4	宝永地震
1	.7	1751. 3.26(寛延4(宝暦1). 2.29)	5.5~6.0	
1	.8	1854.12.23(嘉永7(安政1).11.4)	8.4	安政東海地震
1	.9	1854.12.24(嘉永7(安政1).11.5)	8.4	安政南海地震
$\bigcirc 2$	20	1864. 3. 6(文久4(元治1). 1.28)	$6_{1/4}$	
2	21	1891.10.28(明治24)	8.0	濃尾地震
$\bigcirc 2$	22	1916.11.26(大正5)	6.1	
$\bigcirc 2$	23	1925. 5.23 (大正14)	6.8	北但馬地震
$\bigcirc 2$	24	1927. 3.7 (昭和2)	7.3	北丹後地震
$\bigcirc 2$	25	1943. 9.10 (昭和18)	7.2	鳥取地震
2	26	1946.12.21 (昭和21)	8.0	南海地震
$\bigcirc 2$	27	1949. 1.20 (昭和24)	6.3	
2	28	1952. 7.18 (昭和27)	6.8	吉野地震
2	29	1961. 5. 7 (昭和36)	5.9	
3	30	1963. 3.27(昭和38)	6.9	越前岬沖地震
3	31	1984. 5.30 (昭和59)	5.6	
◎ 3	32	1995. 1.17 (平成7)	7.3	兵庫県南部地震
3	33	2000.10.6 (平成12)	7.3	鳥取県西部地震

兵庫県のどこかに震度5弱以上を与えたと推定される地震

(注1) ○は県内のいずれかに震度6以上を与えたと推定される地震 ◎は県内のいずれかに震度7以上を与えた地震

(注2)なお、『鎮増私聞記』によると、1412年に播磨国で大きな地震が発生したとされている。

兵庫県地域防災計画 地震災害対策計画(平成19年修正)p10による